

看護学科シラバス

2025 2年生

仙台赤門短期大学



目 次

基礎分野

教育学	5
芸術論	6
法律学	7
基礎ゼミⅡ	8

専門分野

看護の基礎となる思考	26
地域・在宅看護援助論Ⅰ	27
地域・在宅看護援助論Ⅱ	28
成人看護学援助論Ⅰ	29
成人看護学援助論Ⅱ	31
高齢者看護学援助論Ⅰ	33
高齢者看護学援助論Ⅱ	34
小児看護学援助論Ⅰ	35
小児看護学援助論Ⅱ	36
母性看護学援助論Ⅰ	37
母性看護学援助論Ⅱ	39
精神看護学援助論Ⅰ	41
精神看護学援助論Ⅱ	43
看護研究	45

専門基礎分野

人体の構造と機能Ⅲ	9
疾病治療論Ⅰ	10
疾病治療論Ⅱ	12
疾病治療論Ⅲ	14
疾病治療論Ⅳ	16
疾病治療論Ⅴ	18
リハビリテーション論	19
東洋医学概論	20
東洋医学方法論	21
公衆衛生学	22
保健医療福祉システム論	23
医療と倫理	24
医療・福祉関係法規	25

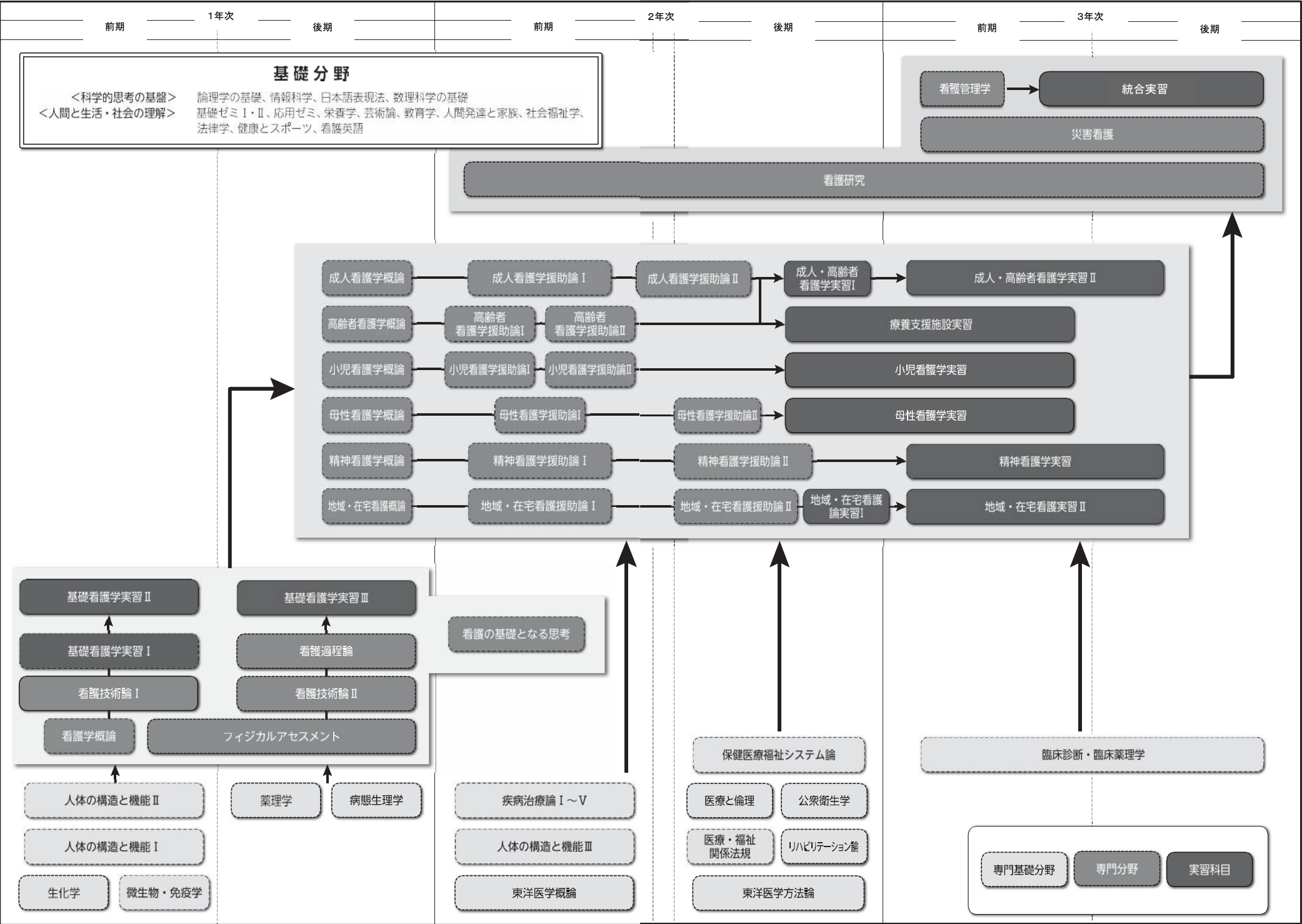
(臨地実習)

地域・在宅看護実習Ⅰ	46
成人・高齢者看護学実習Ⅰ	47
療養支援施設実習	49
小児看護学実習	51
母性看護学実習	53

※ 巻末… 専任教員・オフィスアワー、並びに
非常勤講師一覧(2年次担当)

授業科目及び単位数

		第1年次				第2年次				第3年次			
	授業科目	前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学の基礎	1	数理学の基礎	1								
		情報科学	1										
		日本語表現法	1										
	人間の生活・社会の理解	基礎ゼミⅠ			1	基礎ゼミⅡ			1	応用ゼミ			1
		人間発達と家族	1			芸術論(選択)	1			看護英語			1
		社会福祉学	1			法律学(選択)							
		栄養学	1			教育学	1						
				健康とスポーツ	1								
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	2			人体の構造と機能Ⅲ	1						
		人体の構造と機能Ⅱ	2										
	疾病の成り立ちと回復の促進	生化学	1	薬理学	1	疾病治療論Ⅰ	1			臨床診断・臨床薬理学			1
		微生物・免疫学	1	病態生理学	1	疾病治療論Ⅱ	1						
						疾病治療論Ⅲ	1						
						疾病治療論Ⅳ	1						
						疾病治療論Ⅴ	1						
								リハビリテーション論	1				
	健康支援と社会保障制度					東洋医学概論	1	東洋医学方法論	1				
								公衆衛生学	1				
								保健医療福祉システム論	1				
								医療と倫理	1				
								医療・福祉関係法規	1				
専門分野	基礎看護学	看護学概論	2	看護過程論	2	看護の基礎となる思考	1						
		看護技術論Ⅰ	2	看護技術論Ⅱ	2								
		フィジカルアセスメント			2								
	地域・在宅看護			地域・在宅看護概論	2	地域・在宅看護援助論Ⅰ	2	地域・在宅看護援助論Ⅱ	2				
	成人看護学			成人看護学概論	2	成人看護学援助論Ⅰ	2						
						成人看護学援助論Ⅱ			2				
	高齢者看護学			高齢者看護学概論	1	高齢者看護学援助論Ⅰ	1						
						高齢者看護学援助論Ⅱ	2						
	小児看護学			小児看護学概論	1	小児看護学援助論Ⅰ	1						
						小児看護学援助論Ⅱ	2						
	母性看護学			母性看護学概論	1	母性看護学援助論Ⅰ	1	母性看護学援助論Ⅱ	2				
	精神看護学			精神看護学概論	1	精神看護学援助論Ⅰ	2	精神看護学援助論Ⅱ	1				
	看護の統合と実践									看護管理学	1		
						看護研究							2
										災害看護			1
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	基礎看護学実習Ⅲ	2			地域・在宅看護実習Ⅰ	1	地域・在宅看護実習Ⅱ			2
		基礎看護学実習Ⅱ	1					成人・高齢者看護学実習Ⅰ	2	成人・高齢者看護学実習Ⅱ			3
								療養支援施設実習			2		
								小児看護学実習			2		
								母性看護学実習			2		
										精神看護学実習			2
										統合実習			3



科目の位置付け ナンバリングについて

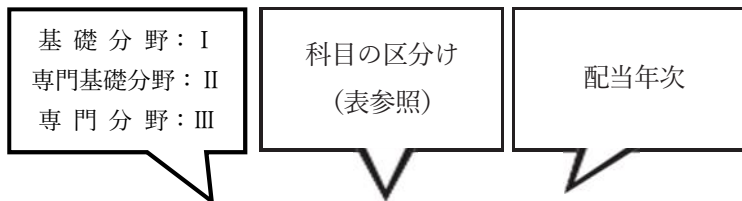
教育の質に係る客観的指標として、文部科学省より

○卒業認定・学位授与の方針と、それぞれの授業科目の関連

○授業科目の教育課程内の位置付けや水準を表す数字や記号（ナンバリング含む）
をシラバスに記載することが求められています。

各科目のナンバリングの見方については下記を参照してください。

（例） 1 年生「数理科学の基礎」： I - 1 - 1 - 1, 4



I - 1 - 1 - 1, 4

学修成果（到達目標）

※複数当てはまる場合、すべて記述

1. 看護に必要な基礎的知識・技術を対象に合わせて実践できる
2. 看護の対象者の生命・尊厳・人権を尊重した人間関係を構築できる
3. 看護師の独自性を発揮し、他職種と連携・協働できる
4. 専門職業人として、自己実現に向けて継続して学習する基盤がもてる
5. 地域社会の保険・医療・福祉の状況を把握し、その質の向上を目指すことができる

2025年度科目一覧

分野	授業科目		配当 年次	学修 成果	位置付け記号
基礎分野 I	科学的思考の基盤 1	数理科学の基礎	1	1,4	I－1－1－1,4
		情報科学	1	1,4	I－1－1－1,4
		日本語表現法	1	1,4	I－1－1－1,4
		論理学の基礎	1	1,4	I－1－1－1,4
	人間の生活・社会の理解 2	基礎ゼミ I	1	1,2,3,4,5	I－2－1－1,2,3,4,5
		人間発達と家族	1	1,2,4	I－2－1－1,2,4
		社会福祉学	1	1,4	I－2－1－1,4
		栄養学	1	1,4	I－2－1－1,4
		健康とスポーツ	1	1,4	I－2－1－1,4
		基礎ゼミ II	2	2,3,4	I－2－2－2,3,4
		芸術論（選択）	2	2,4	I－2－2－2,4
		法律学（選択）	2	2,4	I－2－2－2,4
		教育学	2	2,4	I－2－2－2,4
		応用ゼミ	3	2,3,4,5	I－2－3－2,3,4,5
		看護英語	3	1,4	I－2－3－1,4
	人体の構造と機能 1	人体の構造と機能 I	1	1,4	II－1－1－1,4
		人体の構造と機能 II	1	1,4	II－1－1－1,4
		人体の構造と機能 III	2	1,4	II－1－2－1,4
専門基礎分野 II	疾病の成り立ちと回復の促進 2	生化学	1	1,4	II－2－1－1,4
		微生物・免疫学	1	1,4	II－2－1－1,4
		薬理学	1	1,4	II－2－1－1,4
		病態生理学	1	1,4	II－2－1－1,4
		疾病治療論 I	2	1,4	II－2－2－1,4
		疾病治療論 II	2	1,4	II－2－2－1,4
		疾病治療論 III	2	1,4	II－2－2－1,4
		疾病治療論 IV	2	1,4	II－2－2－1,4
		疾病治療論 V	2	1,4	II－2－2－1,4
		リハビリテーション論	2	1,4	II－2－2－1,4
		臨床診断・臨床薬理学	3	1,4	II－2－3－1,4
	健康支援と社会保障制度 3	東洋医学概論	2	1,4	II－3－2－1,4
		東洋医学方法論	2	1,4	II－3－2－1,4
		公衆衛生学	2	1,4,5	II－3－2－1,4,5
		保健医療福祉システム論	2	1,4	II－3－2－1,4
		医療と倫理	2	1,2,4	II－3－2－1,2,4
		医療・福祉関係法規	2	1,4	II－3－2－1,4
分野	授業科目		配当 年次	学修 成果	位置付け記号
専門分野 III	基礎看護学 1	看護学概論	1	1,2,3,4,5	III－1－1－1,2,3,4,5
		看護技術論 I	1	1,2,3,4	III－1－1－1,2,3,4
		フィジカルアセスメント	1	1,2,3,4	III－1－1－1,2,3,4
		看護過程論	1	1,2,3,4	III－1－1－1,2,3,4
		看護技術論 II	1	1,2,3,4	III－1－1－1,2,3,4
		看護の基礎となる思考	2	1,2,4	III－1－2－1,2,4
	地域・在宅看護 2	地域・在宅看護概論	2	1,4,5	III－2－1－1,4,5
		地域・在宅看護援助論 I	2	1,2,3,4,5	III－2－2－1,2,3,4,5
		地域・在宅看護援助論 II	2	1,2,3,4,5	III－2－2－1,2,3,4,5
	成人看護学 3	成人看護学概論	1	1,4,5	III－3－1－1,4,5
		成人看護学援助論 I	2	1,2,3,4,5	III－3－2－1,2,3,4,5
		成人看護学援助論 II	2	1,2,3,4,5	III－3－2－1,2,3,4,5
	高齢者看護学 4	高齢者看護学概論	1	1,2,3,4,5	III－4－1－1,2,3,4,5
		高齢者看護学援助論 I	2	1,2,3,4,5	III－4－2－1,2,3,4,5
		高齢者看護学援助論 II	2	1,2,3,4,5	III－4－2－1,2,3,4,5
	小児看護学 5	小児看護学概論	1	2,4,5	III－5－1－2,4,5
		小児看護学援助論 I	2	1,2,3,4,5	III－5－2－1,2,3,4,5
		小児看護学援助論 II	2	1,2,3,4,5	III－5－2－1,2,3,4,5
	母性看護学 6	母性看護学概論	1	1,2,3,4,5	III－6－1－1,2,3,4,5
		母性看護学援助論 I	2	1,2,3,4,5	III－6－2－1,2,3,4,5
		母性看護学援助論 II	2	1,2,3,4,5	III－6－2－1,2,3,4,5
	精神看護学 7	精神看護学概論	1	1,2,3,4,5	III－7－1－1,2,3,4,5
		精神看護学援助論 I	2	1,2,3,4,5	III－7－2－1,2,3,4,5
		精神看護学援助論 II	2	1,2,3,4,5	III－7－2－1,2,3,4,5
	看護の統合と実践 8	看護研究	2・3	4,5	III－8－2・3－4,5
		看護管理学	3	2,3,4	III－8－3－2,3,4
		災害看護	3	1,2,3,4	III－8－3－1,2,3,4
	臨地実習 9	基礎看護学実習 I	1	1,2,3,4,5	III－9－1－1,2,3,4,5
		基礎看護学実習 II	1	1,2,3,4	III－9－1－1,2,3,4
		基礎看護学実習 III	1	1,2,3,4	III－9－1－1,2,3,4
		地域・在宅看護実習 I	2	1,2,3,4,5	III－9－2－1,2,3,4,5
		成人・高齢者看護学実習 I	2	1,2,3,4,5	III－9－2－1,2,3,4,5
		療養支援施設実習	2・3	1,2,3,4,5	III－9－2・3－1,2,3,4,5
		小児看護学実習	2・3	1,2,3,4,5	III－9－2・3－1,2,3,4,5
		母性看護学実習	2・3	1,2,3,4,5	III－9－2・3－1,2,3,4,5
		地域・在宅看護実習 II	3	1,2,3,4,5	III－9－3－1,2,3,4,5
		成人・高齢者看護学実習 II	3	1,2,3,4,5	III－9－3－1,2,3,4,5
		精神看護学実習	3	1,2,3,4,5	III－9－3－1,2,3,4,5
		統合実習	3	1,2,3,4,5	III－9－3－1,2,3,4,5

授 業 科 目 名	教育学	科目の位置付け	I－2－2－2,4
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	2年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	佐久間 啓彰	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	教育と看護についての共通性を探りながら、教育についての理解を深めていく。 トピックスとしては「教育格差」「教育における『問題』」「教育実践を考える」「特別支援教育について」などを予定。授業形態は、講義とグループ対話を中心に行い、毎回の振り返りをリフレクションペーパーに記録する。		
授業のキーワード	教育と看護、教育制度、教育格差、教育問題、教育実践、特別支援教育		
授業の到達目標	Ⅰ 教育についての基本的な考え方を説明できるようになる。 Ⅱ 教育と看護について、共通性を関連付けながら説明できるようになる。 Ⅲ 授業をしっかりと振り返り、テーマについて根拠を持って説明できるようになる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション：教育と看護	
	2	日本の教育制度	
	3	教育格差を考える① 社会階層・移動	
	4	教育格差を考える② 格差と平等	
	5	教育格差を考える③ 文化と教育達成	
	6	教育における「問題」① 学校段階ごとの課題	
	7	教育における「問題」② いじめ・不登校	
	8	教育における「問題」③ 非主流の学校教育と学校外教育	
	9	教育における「問題」④ 教員の「多忙」	
	10	教育における「問題」⑤ マイノリティと教育	
	11	教育実践を考える① 事例を知る	
	12	教育実践を考える② 事例を考察する	
	13	教育実践を考える③ 討論する	
	14	特別支援教育について	
	15	授業の総括	
教 科 書	使用しない		
参考文献 その他資料	参考文献等は、授業の内容に応じて適宜紹介する。		
成績評価方法	次のようにポイント制とする。 毎回のリフレクションペーパーの提出と質：各4ポイント。15回で小計60ポイント。 最終論述試験：40ポイント。以上100ポイントが満点。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	1. 教育と看護の関連性について常に意識して授業に臨み、教育学の知見が看護についてのスキルアップにつながることを理解を深めること。 2. 授業をしっかりと振り返り、リフレクションペーパーに考えをまとめること。 3. 予習・復習合わせて1時間程度の学習をすること。		

授 業 科 目 名	芸術論	科目の位置付け	I－2－2－2,4
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	2年次 前期	必 修 ・ 選 択	選択
担 当 教 員	尾崎 彰宏	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	古代から近現代までの芸術作品を見ることを通して、人間の思想や感情を表現する芸術について学ぶ。その学習経験から豊かな感性を育み、これまでの歴史の中で実現されてきた個性的な表現とはどのようなものかを理解することができる。生活の中に芸術を取り入れることで、「幸福」な生とはどのようなことなのかを考える手がかりとしたい。		
授業のキーワード	芸術と宗教、芸術と医療、芸術と思想、美学、現代社会の課題		
授業の到達目標	Ⅰ 美術作品を通して、視覚表現は人間の内面性を形作るにあたって言語表現とは異なった働きをしていることを学ぶことができる。 Ⅱ 視覚表現がもつ感性的な世界の豊かさを知ることが、そして見る喜びを学ぶことは生きる力を得ることで、他者に「やさしい」人間性を備えるようになることができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	プロローグ：芸術鑑賞の意義とその面白さ	
	2	古代ギリシア美術	
	3	古代ローマ美術から初期キリスト教美術	
	4	ロマネスクとゴシックの美術	
	5	ゴシックからルネサンスへの転換：ジョットを中心に	
	6	イタリア・ルネサンス美術 1	
	7	イタリア・ルネサンス美術 2	
	8	イタリア・ルネサンス美術 3	
	9	北方ルネサンス美術 1	
	10	北方ルネサンス美術 2	
	11	マニエリスム美術	
	12	バロック美術 1	
	13	バロック美術 2	
	14	近代美術 1	
	15	近代美術 2	
教 科 書	プリントを使用し、必要に応じて教室で指定する。		
参考文献 其他資料	授業中に適宜指示する		
成績評価方法	授業態度（50％）試験（50％）		
履 修 条 件	特になし		
備 考	配布資料に目を通しておくこと。特に、授業終了後、講義内容を思いだし、紹介された文献を手にとったり、海外にある美術作品についてはネットなどを利用して熟覧したりしておくこと（予習・復習あわせて2時間程度）。再試験の必要なものについては、記述内容について、改善点を指摘する。		

授 業 科 目 名	法律学	科目の位置付け	I－2－2－2,4
単 位 数	1 単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	2 年次 前期	必 修 ・ 選 択	選択
担 当 教 員	陶久 利彦	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	法律学は非常に長い歴史を持つ学問である。日常生活に役立つ実用性を持つと同時に、人間存在のあり方に深くかかわる人類の知恵の結晶でもある。今年度は、身近な個人から出発し、共同体へと視野を広げ、更には国家との関連でどのように「法」が関わるのかを考える。看護師との関連を意識するが、法学一般の内容も含む。授業中には受講生同士で設問について議論をする機会を設けたい。		
授業のキーワード	市民・住民・国民としての法的地位、統治と人権、看護師職と法		
授業の到達目標	Ⅰ 普段の生活に法がどのように生きているかを理解できるようになる。 Ⅱ 特に看護師職がどのような場面で法に関わるのかを理解できるようになる。 Ⅲ 基本的な法的知識を修得し、それを法的思考に基づいて実際の事案に活用できるようになる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	ガイダンス。法の必要性和体系概説	
	2	個人の尊重；いじめ、子ども、配偶者、高齢者、障害者	
	3	自由；思想表現＝ヘイトスピーチ、ネット上の暴言、宗教など	
	4	自由；身体＝刺青、中絶、人工生殖	
	5	自由；労働、職業選択、移動、キャリア形成	
	6	ジェンダー平等	
	7	平等；世代間、税金、相続	
	8	平等；親ガチャ、世界のどこに・いつ生まれたか	
	9	約束と責任	
	10	共同体の形成；婚姻・離婚	
	11	共同体の形成；地域共同体、ボランティア、非営利団体、国家	
	12	共同体の破壊と再生；犯罪と更生	
	13	公共世界への参画；政治参加	
	14	公共世界への参画；司法、裁判員制度	
	15	公共世界への参画；行政、公的機関への請求、共同体の自主的形成	
教 科 書	なし		
参考文献 その他資料	できれば小さめの各種『六法』を購入してほしい。有名なのは、有斐閣『ポケット六法』である。毎年新しい版が出ている。経済的に厳しい場合には、e-Gov法令検索(e-gov.go.jp)を利用するのも可。 尚、適宜、参考資料を指示する。		
成績評価方法	毎回の課題（3点×15回＝45点）と定期試験（55点）による。 毎回の授業に関連した課題は、基本的に授業の振り返りである。授業内容の理解度、文章表現力、自説のオリジナリティ等を評価基準とする。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	・ 毎回の授業テーマについて、教科書の該当部分を読み、関連事項を調べるなどの予習に約2時間、授業内容をまとめ、重要事項を十分理解する等の復習に約2時間の学習が必要である。 ・ 毎回の課題については、次週に口頭又はその他の方法で解説をする。		

授 業 科 目 名	基礎ゼミⅡ	科目の位置付け	Ⅰ－2－2－2,3,4	
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間	
履 修 年 次	2年次 通年	必 修 ・ 選 択	必修	
担 当 教 員	平尾 由美子、森岡 薫、菊地 真、岩渕 起江、鈴木 博美、寺田 みゆり（全員実務経験あり）		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	看護職としての自己のキャリアを構築するための基本的知識と思考力を涵養する。自ら学び続け目標達成できるよう生活習慣と学習スタイルの定着を図る。また学生生活の中で他者と協力し学び合う力を養う。			
授業のキーワード	キャリア教育、基本的学習態度、リーダーシップ、メンバーシップ、コミュニケーション能力			
授業の到達目標	1．自己の将来の職業における目的志向を明確にすることができる。 2．生活と学習面における課題と目標を明確化し、課題解決と目標達成のために計画的に行動できる。 3．グループ活動を通し、リーダーシップ・メンバーシップの向上を図ることができる。 4．外国語を含めたコミュニケーションの基本的スキルを身につけることができる。			
授 業 計 画	回	内 容		
	1	国家試験に向けて ミニテスト50問（50分）/模試後の復習方法について		
	2	キャリア支援「就職を考える」		
	3	模擬試験の復習 グループでの解説学習		
	4	キャリアデザインⅢ（キャリア支援アドバイザー）		
	5	仙台の魅力を知りみんなに伝えよう（フィールドワーク）		
	6	仙台の魅力を知りみんなに伝えよう（フィールドワーク）		
	7	フィールドワーク資料作成および発表		
	8	自己の生活上・学習上の課題を振り返り対策を考える/担任面談		
	9	自己の生活上・学習上の課題を振り返り対策を考える/担任面談		
	10	キャリア支援「自己分析、就職先の選択について」		
	11	医療現場で使う英会話①		
	12	医療現場で使う英会話②		
	13	医療現場で使う英会話③		
	14	卒業生との懇談会		
15	国試勉強の方法について			
教 科 書	なし			
参考文献 その他資料	必要に応じて提示する。			
成績評価方法	成績評価は、授業準備・課題探求・発表に向けた実践活動、参加態度（30％）、演習・レポート、試験（70％）により評価する。			
履 修 条 件	特になし。			
備 考				

授 業 科 目 名	人体の構造と機能Ⅲ	科目の位置付け	Ⅱ－1－2－1,4
単 位 数	1 単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	2 年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	笹野 公伸	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	1 年次に履修する「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「病態生理学」は、初学者にとってハードルの高い専門基礎科目である。きわめて多数の術語と、術語に内包される概念が続出し、しかもそれらは時間的・空間的に複雑に相互関連しあう事柄だからである。そこで「人体の構造と機能Ⅲ」においては、上記 2 科目の内容を、問題解答形式で改めて反復学習することにより、理解を深め定着を図ることを目的とする。		
授業のキーワード	生体の恒常性、情報伝達、消化・吸収・排泄、病態生理、エネルギー産生と消費、同化と異化		
授業の到達目標	Ⅰ 各臓器の機能を、互いに関連付けて説明できる。 Ⅱ 解剖生理と病態生理の知識を、関連付けて説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	循環器疾患の病態生理（心不全、虚血性心疾患、不整脈）	
	2	循環器疾患の病態生理（弁膜症、高血圧、末梢血管の疾患）	
	3	呼吸器疾患の病態生理（症状と検査、閉塞性肺疾患）	
	4	呼吸器疾患の病態生理（感染症、肺がん）	
	5	消化器疾患の病態生理（消化管）	
	6	消化器疾患の病態生理（肝胆膵）	
	7	腎疾患の病態生理	
	8	泌尿器疾患の病態生理	
	9	代謝疾患の病態生理	
	10	内分泌疾患の病態生理	
	11	血液疾患の病態生理	
	12	免疫疾患の病態生理	
	13	脳・神経疾患の病態生理（中枢神経）	
	14	脳・神経疾患の病態生理（末梢神経）	
	15	まとめ	
教 科 書	特になし		
参考文献 其他資料	理解のための図、並びに問題プリントを配布する		
成績評価方法	定期試験により評価する		
履 修 条 件	特になし		
備 考	予め当該の問題集を渡すので、授業前に目を通しておくこと（30分）。 授業後は、ノートに記載した解説内容とともに復習すること（30分）。 問題の解答は明示するので参照すること。		

授 業 科 目 名	疾病治療論Ⅰ (呼吸器疾患、外科総論、麻酔科、眼科)		科目の位置付け	Ⅱ－2－2－1,4
			時 間 数	30時間
単 位 数	1単位		必 修 ・ 選 択	必修
履 修 年 次	2年次 前期		講 義 形 式	講義
担 当 教 員	千葉 茂樹、大河内 眞也、井上 彰、渡辺 彰、佐藤 千晃、岡本 宏史、 水田 健太郎、國方 彦志			
授業の概要・目的	1年次に学んだ病態生理学の知識をもとに、臨床医学への導入を図るのが、疾病治療論の科目である。疾患の概念、症状と所見、診断と治療、予後などを、系統的に学ぶ。内科学がその主たる内容となるが、他の臨床科目をもカバーしており、看護学生が習得すべき基礎的な知見を提供する。疾病治療論Ⅰにおいては、呼吸器疾患、外科総論、麻酔科学、眼科疾患を取り上げる。 Ⅰ 呼吸器の構造と臓器特異性を学習し、主な呼吸器疾患について理解する。 Ⅱ 外科医療の基礎となる侵襲、創傷治療、外傷、熱傷、栄養管理、輸液療法、外科的基本手技、低侵襲手術、臓器移植、それぞれについての基本的な知識を得る。 Ⅲ 麻酔法の種類（全身麻酔と局所麻酔）、術中の呼吸循環管理、輸液について基本的な知識を得る。 Ⅳ 眼の解剖・機能・重要性を理解する。眼疾患、なかでも特に緊急対応を要する疾患を理解する。最新の治療についても知識を得る。			
授業のキーワード	気管、気管支、肺、閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、肺がん、ウイルス、細菌、結核。 外科医療の基礎、外傷、熱傷、栄養管理、輸液療法、外科的基本手技、低侵襲手術、臓器移植。麻酔、術中管理、輸液、気道確保。			
授業の到達目標	Ⅰ 呼吸器疾患の特性を理解し、実臨床での患者看護に役立てることができる。 Ⅱ 外科総論の基本的考え方を身につけることができる。 Ⅲ 麻酔法をリアリティを持って理解することができる。 Ⅳ 眼の構造を理解する。失明に至る可能性のある重要な眼疾患や緊急対応が必要な眼科疾患を熟知し、看護に役に立てられる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	呼吸器の構造と機能		千葉
	2	呼吸器症状と病態生理		千葉
	3	呼吸器疾患の検査と治療・処置		千葉
	4	閉塞性肺疾患		大河内
	5	拘束性肺疾患		大河内
	6	呼吸器腫瘍		井上
	7	呼吸器感染症（１）		渡辺
	8	呼吸器感染症（２）		渡辺
	9	外科医療の基礎となる侵襲について		佐藤
	10	外傷と熱傷、栄養管理		佐藤
	11	輸血療法、外科的基本手技		岡本
	12	低侵襲手術、臓器移植		岡本
	13	麻酔法		水田
	14	術中の循環呼吸管理、輸液		水田
	15	眼科疾患		國方

教科書	系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
参考文献 その他資料	系統看護学講座 成人看護学〔13〕眼 医学書院 授業にて適宜配布
成績評価方法	定期試験による
履修条件	特になし
備考	履修にあたっての注意 教科書を事前にしっかり熟読しておく事。授業ごとにレポートを課す場合がある。その内容については評価の対象とする。（予習・復習共に1コマ当たり1時間程度）レポートはその度に解説を加えてフィードバックする。

授 業 科 目 名	疾病治療論Ⅱ (循環器疾患、腎疾患、泌尿器疾患、乳腺)		科目の位置付け	Ⅱ－2－2－1,4
			時 間 数	30時間
単 位 数	1単位		必 修 ・ 選 択	必修
履 修 年 次	2年次 前期		講 義 形 式	講義
担 当 教 員	西條 芳文、芳賀 博、梶井 成彦、江幡 明子			
授業の概要・目的	1年次に学んだ病態生理学の知識をもとに、臨床医学への導入を図るのが、疾病治療論の科目である。疾患の概念、症状と所見、診断と治療、予後などを、系統的に学ぶ。内科学がその主たる内容となるが、他の臨床科目をもカバーしており、看護学生が習得すべき基礎的な知見を提供する。疾病治療論Ⅱにおいては、循環器疾患、腎疾患、泌尿器科疾患、乳がんを取り上げる。 I 循環器系の解剖・生理の基本を学び、高血圧、虚血性心疾患、不整脈、心筋症、大動脈瘤、先天性心疾患、心不全などの循環器疾患の病態をよく知ったうえで、症状、診断、内科・外科的治療、心臓リハビリテーションについて理解し、看護援助に活用することを目的とする。 II 腎疾患もしくは障害がある患者の症状、メカニズムについて学び、看護方法を理解する。特に慢性腎不全から透析に至るような疾患については頻度の高いものを理解し、内科的・外科的治療について把握し活用する事を目的とする。 III 排泄機能障害・泌尿器感染症の特性について学び、看護援助に活用することを目的とする。排泄機能障害としては、主として腎疾患、尿路系疾患、男性生殖器の腫瘍などの疾患について、病態生理、診断、内科・外科的治療について理解する。 IV 悪性腫瘍のうち、日本人女性で最も罹患率の高い乳がんについて理解を深め、早期発見・早期治療の意義を学習し検診受診の重要性を学ぶ。更に乳がんの手術療法、薬物療法などの標準治療について学び、看護の役割を把握する。			
授業のキーワード	高血圧、虚血性心疾患、不整脈、心筋症、先天性心疾患、心不全、心電図、心臓カテーテル検査、薬物療法、冠動脈インターベンション治療。腎機能、慢性腎臓病、尿路感染症、浮腫、ネフローゼ症候群、前立腺、透析医療。尿の排泄機能障害、泌尿器疾患。乳がん、乳がん罹患リスク、乳がん罹患率、乳がん死亡率、乳がん10年生存率。			
授業の到達目標	I 循環器系の解剖・生理、循環器疾患の診断方法・治療方法を理解し説明できる。 II 腎疾患、透析患者の看護について、自分で計画を立てられるようにする。 III 泌尿器科疾患の病態・診断と治療法を把握し述べることができる。 IV 乳房の疾患について学び乳癌の薬物治療、手術治療における看護の役割を把握し述べるができる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	循環器系の解剖・生理		西條
	2	循環器疾患の症状と病態生理		西條
	3	循環器疾患の診断		西條
	4	虚血性心疾患		西條
	5	不整脈		西條
	6	心不全		西條
	7	その他の循環器疾患		西條
	8	心臓リハビリテーション		西條
	9	腎臓総論		芳賀

	10	主な腎臓病と検査	芳賀
	11	腎臓病の治療	芳賀
	12	患者の看護（透析療法を含む）	芳賀
	13	泌尿器科学総論、泌尿器科癌（前立腺癌、腎癌、腎盂・尿管・膀胱癌、精巣腫瘍・陰茎癌）の診断と治療法	梅井
	14	泌尿器科疾患：尿路性器感染症、尿路結石症、前立腺肥大症、LUTS、過活動膀胱・神経因性膀胱、男子性機能障害ED、アンドロロジー他	梅井
	15	乳癌の疫学、乳腺の良性腫瘍、乳腺の悪性腫瘍、乳癌の診断、乳癌の手術治療、乳癌の薬物治療、乳癌の放射線治療、乳癌の再発 治療	江幡
教科書	系統看護学講座 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院		
参考文献 その他資料	教科書の補助的内容をプリント配布する病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器		
成績評価方法	レポート・小テストおよび定期試験による		
履修条件	特になし		
備考	履修にあたっての注意 教科書を事前にしっかり熟読しておく事。授業ごとにレポートを課す場合がある。 その内容については評価の対象とする。（予習・復習共に1コマ当たり1時間程度） レポートはその度に解説を加えてフィードバックする。		

授 業 科 目 名	疾病治療論Ⅲ (消化器、内分泌、代謝の各疾患、婦人科)		科目の位置付け	Ⅱ-2-2-1,4
			時 間 数	30時間
単 位 数	1単位		必 修 ・ 選 択	必修
履 修 年 次	2年次 前期		講 義 形 式	講義
担 当 教 員	阿南 陽二、柴原 茂樹、小野 美澄、手塚 雄太、淵之上 康平			
授業の概要・目的	1年次に学んだ病態生理学の知識をもとに、臨床医学への導入を図るのが、疾病治療論の科目である。疾患の概念、症状と所見、診断と治療、予後などを、系統的に学ぶ。内科学がその主たる内容となるが、他の臨床科目をもカバーしており、看護学生が習得すべき基礎的な知見を提供する。疾病治療論Ⅲにおいては、消化器疾患、内分泌疾患、代謝疾患、婦人科疾患を取り上げる。 I 消化器疾患と癌の罹患状況を理解する。食道・胃疾患の診断と治療を学ぶ。 II 消化吸収のしくみ、感染や炎症による疾患の概要とイレウスの病態、大腸癌の診断と治療について学ぶ。 III 肝臓の働きとウイルス性肝炎、肝硬変の病態と治療、肝癌の診断と治療を学ぶ。 IV 胆道疾患、膵臓疾患、および消化器画像診断について学ぶ。 V 内分泌、代謝器官の構造と機能を理解し、疾病の症状やメカニズム、治療・検査・治療とその意義について学び、その患者に対する看護知識を身につける。 VI 主要な婦人科疾患の原因、症状、診断、治療について学ぶ。			
授業のキーワード	癌の統計、胃食道逆流症、食道癌、消化吸収、胃癌、胃管、腹膜炎、食中毒、炎症性腸疾患、イレウス、大腸癌、便秘・浣腸、虫垂炎・腹膜炎、吐血・下血、門脈、肝臓の働き、肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、食道静脈瘤、肝癌、胆汁と黄疸、ERCP と胆道ドレナージ、胆石、膵炎、胆膵の癌、消化器内視鏡検査、自立神経、腹部エコー、CT、MRI、視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、糖尿病、脂質異常症、肥満、メタボリックシンドローム、高血圧、骨粗鬆症、性感染症、子宮筋腫、子宮内膜症、更年期障害、卵巣嚢腫、子宮体癌、卵巣癌			
授業の到達目標	I 消化器各臓器の基本的な働きを学び直し、代表的な疾患に関する基礎知識を修得し、説明することができる。 II 我が国の死因のトップで増加傾向にある悪性腫瘍のなかで、消化器の各臓器に発生する癌に関する基礎知識を習得し、説明することができる。 III 臨床の現場で頻度が多い逆流性食道炎やイレウス、肝障害、腹膜炎や胆石症などについて、基礎的知識を習得し、説明することができる。 IV 胃管の挿入や管理、便秘への対応や適切な浣腸の方法、人工肛門のケアなど、看護に求められる知識を習得し、説明することができる。 VI 実際の内分泌・代謝疾患の患者をイメージし、治療・看護目標を自分で立てることができる。 VII 主要な婦人科疾患の病態、症状、診断、治療法を理解し説明できる。 VIII 婦人科特有の診察方法を理解し、看護に必要な知識を身につける。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	癌の罹患状況、食道の働きと解剖、胃食道逆流症、食道癌		阿南
	2	胃の働き、胃癌、胃管の管理、腹膜の理解		阿南
	3	消化吸収、食中毒と腸炎、炎症性腸疾患、イレウスの病態と診断		阿南
	4	大腸癌、直腸癌の手術と人工肛門、便秘の種類と浣腸、下血、腹膜炎		阿南
	5	門脈の理解、肝臓の働き、ウイルス性肝炎		阿南

授 業 計 画	6	肝硬変、門脈圧亢進症、食道静脈瘤、肝細胞癌	阿南
	7	胆汁の働きと黄疸、ERCPとMRCP、胆道ドレナージ法、胆石症	阿南
	8	膵臓の働きと急性膵炎、胆膵の癌、消化器画像診断	阿南
	9	内分泌・代謝疾患総論	柴原
	10	内分泌疾患各論	柴原
	11	糖尿病	小野
	12	脂質異常症、肥満症、メタボリックシンドローム	手塚
	13	高尿酸血症、骨粗鬆症、高血圧	小野
	14	婦人科疾患（女性生殖器解剖・生理、検査、感染症、子宮内膜症）	淵之上
	15	婦人科疾患（子宮筋腫、卵巣嚢腫、子宮がん、卵巣がん）	淵之上
教 科 書	系統看護学講座 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院		
参考文献 その他資料	病気がみえる メディックメディアvol. 3「糖尿病・代謝・内分泌」 vol. 5「消化器」		
成績評価方法	レポート、小テスト・及び定期試験による		
履 修 条 件	特になし		
備 考	教科書を事前にしっかり熟読しておく事。授業ごとにレポートとプレゼンテーションを課す場合がある。その内容については評価の対象とする。 （予習・復習共に1コマ1時間程度） レポートはその度に解説を加えてフィードバックする。		

授 業 科 目 名	疾病治療論Ⅳ (脳・神経、免疫、運動器、口腔、耳鼻咽喉の各疾患)		科目の位置付け	Ⅱ－2－2－1,4
			時 間 数	30時間
単 位 数	1 単位		必 修 ・ 選 択	必修
履 修 年 次	2 年次 前期		講 義 形 式	講義
担 当 教 員	志賀 裕正、齋木 由利子、橋本 功、飯久保 正弘、香取 幸夫			
授業の概要・目的	1 年次に学んだ病態生理学の知識をもとに、臨床医学への導入を図るのが、疾病治療論の科目である。疾患の概念、症状と所見、診断と治療、予後などを、系統的に学ぶ。内科学がその主たる内容となるが、他の臨床科目をもカバーしており、看護学生が習得すべき基礎的な知見を提供する。疾病治療論Ⅳにおいては、脳・神経疾患、免疫 膠原病・アレルギー疾患、運動器疾患、口腔疾患、耳鼻咽喉科疾患を取り上げる。 I 神経解剖および神経生理の知識に基づき、各種神経疾患の病態、症状、検査、診断、治療について習得する。 II アレルギー・膠原病疾患をもつ患者について、看護に必要な疾患概念について学ぶ。疾病の原因・症状・検査・治療を学ぶことで、看護における対象者の症状や痛みを理解し、ケアに活かす能力を養う。 III 運動器の解剖・特性および運動器疾患の病態・診断法・治療法を知り、患者の病態に即した適切な看護や支援方法について学ぶ。 IV 口腔領域の疾患を有する患者に適切な看護を行うために、口腔領域の構造や機能および疾患と治療の基本的知識を習得するとともに、口腔領域の疾患を有する患者の身体的・心理的特徴を理解して、患者および家族への援助法を学ぶ。 V 耳鼻咽喉科領域の治療に適切な看護を行うことを目的に、代表的な疾患を知り、疾病により障害される機能について学ぶ。			
授業のキーワード	神経疾患の病態、髄液検査、画像診断、神経疾患の外科的治療、神経疾患の薬物療法。免疫、アレルギー、病態、看護、膠原病。運動器疾患の病態、徒手検査、画像検査、保存療法、手術療法。視覚情報、眼疾患、失明、治療。う蝕と歯周病、摂食嚥下障害、唇顎口蓋裂、口腔ケア。中耳炎、難聴、めまい、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、扁桃炎、頭頸部癌			
授業の到達目標	I 神経疾患の病態および症状について、理解して説明できる神経疾患の検査に基づいた診断を理解して説明できる 神経疾患の外科的治療、薬物治療について、理解して説明できる II 運動器疾患の病態や症状を理解し説明できる 運動器疾患の検査と治療法について理解し説明できる 運動器疾患の治療に関連して必要な看護アプローチを理解し説明できる III 口腔領域の構造と機能について説明できる。口腔領域の主な疾患を列挙し、その症状と治療法を説明できる。口腔領域の疾患を有する患者の身体的・心理的特徴を説明できる。口腔ケアの目的と方法を説明できる IV 免疫・アレルギー疾患、膠原病の病態、症状、痛み、治療の概略について説明できる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	脳・神経の看護、そして脳・神経系の構造と機能（Ⅰ）		志賀
	2	脳・神経の看護、そして脳・神経系の構造と機能（Ⅱ）		志賀
	3	神経疾患の症状と病態生理（Ⅰ）		志賀
	4	神経疾患の症状と病態生理（Ⅱ）		志賀
	5	神経疾患の検査、診断、そして治療（Ⅰ）		志賀

授 業 計 画	6	神経疾患の検査、診断、そして治療（Ⅱ）	志賀
	7	各種神経疾患の理解（Ⅰ）	志賀
	8	各種神経疾患の理解（Ⅱ）	志賀
	9	リウマチ・膠原病の病態	齋木
	10	アレルギー性疾患の病態	齋木
	11	運動器疾患（Ⅰ）	橋本
	12	運動器疾患（Ⅱ）	橋本
	13	歯と口腔の構造と機能、歯科・口腔外科領域の検査と治療口腔領域の疾患の理解（歯および歯周組織の疾患・口腔粘膜の疾患）	飯久保
	14	口腔領域の疾患の理解（口腔領域の腫瘍・外傷・唇顎口蓋裂）口腔ケア	飯久保
	15	耳鼻咽喉科疾患	香取
教 科 書	系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔10〕運動器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症 医学書院		
参考文献 その他資料	系統看護学講座 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔15〕歯・口腔 医学書院		
成績評価方法	定期試験による		
履 修 条 件	特になし		
備 考	履修にあたっての注意 教科書を事前にしっかり熟読しておく事。授業ごとにレポートを課す場合がある。 その内容については評価の対象とする。（予習・復習共に1コマ1時間程度） レポートはその度に解説を加えてフィードバックする		

授 業 科 目 名	疾病治療論Ⅴ（血液疾患、皮膚疾患、放射線医学）		科目の位置付け	Ⅱ－2－2－1,4
単 位 数	1単位		時 間 数	15時間
履 修 年 次	2年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	齋木 由利子、稲葉 洋平		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	1年次に学んだ病態生理学の知識をもとに、臨床医学への導入を図るのが、疾病治療論の科目である。疾患の概念、症状と所見、診断と治療、予後などを、系統的に学ぶ。内科学がその主たる内容となるが、他の臨床科目をもカバーしており、看護学生が習得すべき基礎的な知見を提供する。疾病治療論Ⅴにおいては、血液疾患、皮膚疾患、放射線医学を取り上げる。 Ⅰ 血液検査において、必要となる血液学の基礎（血球の産生と崩壊、形態と機能、凝固・線溶系の機序）について学ぶ。貧血や白血病、出血や血栓症の病態を理解する。 Ⅱ 皮膚科領域の治療に適切な看護を行うことを目的に、代表的な疾患を知り、疾病により障害される機能について学ぶ。 Ⅲ 放射線医学に関する基礎を学び、臨床の場での応用に結び付ける。主に各画像検査の特徴と有用性を学習する。また、臨床の場で起こりうる放射線被曝についても学び、自身及び患者にとって「避けるべき事柄」と「避ける必要のない事柄」を区別し、スムーズかつ安全な看護業務の遂行を目指す。			
授業のキーワード	血液、血球、貧血、白血病、出血、血栓、線溶、皮膚病変の記載法、接触皮膚炎、蕁麻疹、ベーチェット病、皮膚感染症。医用放射線、画像検査、放射線治療、被曝管理、放射線の生物学的影響			
授業の到達目標	Ⅰ 血球および凝固線溶系の正常の形態や生理的機能を説明できる。白血病や貧血などの疾患と治療の概略を説明できる。血液凝固系の正常と異常、血栓症の発生・治療について説明できる。 Ⅱ 皮膚疾患の所見や症状について説明できる。 Ⅲ 放射線関連看護業務の基礎を理解し、その利便性と効果について知識を深める。 国家試験の出題傾向に沿った内容としつつも、臨床での活用を視野に入れた一歩進んだ理解を得ること目標とする。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	血液の基礎：血液の成分、血液の性状、血液の機能、赤血球の分化、生理機能と病態		齋木
	2	白血球の分化、生理機能と病態白血球の病態		齋木
	3	血小板の分化と生理機能：出血・止血凝固線溶系の生化学とその異常		齋木
	4	皮膚疾患		齋木
	5	医用放射線の基礎、各種モダリティを利用した画像検査の基礎		稲葉
	6	医用放射線の基礎、画像検査一般について（一般撮影等）		稲葉
	7	放射線関連画像検査について（CT、MRI、透視等）		稲葉
	8	放射線関連画像検査について2（超音波、核医学等） 放射線を利用した治療の基礎		稲葉
教 科 書	系統看護学講座 成人看護学〔4〕血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			
参考文献 其他資料	（放射線）今さら聞けない画像診断のキホン（日経メディカル） 系統看護学講座 成人看護学〔12〕皮膚 医学書院			
成績評価方法	定期試験による			
履 修 条 件	特になし			
備 考	履修にあたっての注意 教科書を事前にしっかり熟読しておく事。授業ごとにレポートを課す場合がある。 その内容については評価の対象とする。（予習・復習共に1コマにつき2時間程度） レポートはその度に解説を加えてフィードバックする			

授 業 科 目 名	リハビリテーション論	科目の位置付け	Ⅱ－2－2－1,4
単 位 数	1 単位	時 間 数	15時間
履 修 年 次	2 年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	笠原 岳人	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	・ リハビリテーションの概念および歴史と発展について学習する ・ 医療、介護、在宅におけるリハビリテーションの展開について学習する ・ 疾患別の特徴を踏まえたリハビリテーションの実際を理解する		
授業のキーワード	・ リハビリテーション・障害・評価・訓練		
授業の到達目標	Ⅰ 障害を抱えた人にとって必要なリハビリテーションの意味を説明することができる Ⅱ 看護領域で求められるリハビリテーションの評価と訓練について説明することができる Ⅲ 疾患別の特徴を捉えながらリハビリテーションの関わりを理解することができる		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	リハビリテーションの概念および歴史と発展について	
	2	医療・介護・在宅におけるリハビリテーションの役割について	
	3	リハビリテーションの評価と訓練について	
	4	廃用症候群の予防におけるリハビリテーションの実際について	
	5	中枢性疾患におけるリハビリテーションの実際について	
	6	運動器疾患におけるリハビリテーションの実際について	
	7	超高齢化社会におけるリハビリテーションの実際について	
	8	まとめ	
教 科 書	落合 芙美子他 新体系看護学全書リハビリテーション看護 メヂカルフレンド社		
参考文献 その他資料	特にありません		
成績評価方法	定期試験（60％）、レポート成績（20％）、授業態度（20％）などを総合的に判断して成績評価を行う。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	・ 授業前に教科書の該当箇所を読み、必要な事項および内容を調べるなどの予習に約2時間、授業後の内容のまとめ、および重要事項などの復習に約2時間の学習を行うこと。 ・ 前回講義分の振り返りとして行うミニテストは、自己理解の不十分な内容を把握する目的で実施する。全体的に解答率の低い項目については、再度、解説を行う。		

授 業 科 目 名	東洋医学概論		科目の位置付け	Ⅱ－3－2－1,4
単 位 数	1 単位		時 間 数	15 時間
履 修 年 次	2 年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	平栗 辰也		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	東洋医学の基本的な概念について理解し、現代医学の補完療法として、看護・福祉に活用できる知識を身につけることを目的とする。また看護現場で緩和ケアを目的としたツボ押しなどの手技療法やセルフケアの適正な助言・指導が行えることを目的とする。			
授業のキーワード	陰陽五行論、経絡と経穴（ツボ）、あん摩マッサージ指圧など			
授業の到達目標	Ⅰ 東洋医学の基本的な成り立ちや構成を説明できる。 Ⅱ 東洋医学的に基本的な診断ができる。 Ⅲ ツボ押しなどの手技療法を行うことができる。			
授 業 計 画	回	内 容		
	1	東洋医学の概要		
	2	東洋医学的病因論		
	3	経絡と経穴		
	4	五行論		
	5	東洋医学で診る病態Ⅰ		
	6	東洋医学で診る病態Ⅱ		
	7	手技療法Ⅰ		
	8	手技療法Ⅱ		
教 科 書	プレゼンテーションでの提示やプリントを配布する。			
参考文献 其他資料	授業で必要に応じて、適宜紹介する。			
成績評価方法	定期筆記試験結果 80%、課題 10%、授業への取り組み姿勢・態度 10%を合計し評価する。			
履 修 条 件	特になし			
備 考	履修にあたっての注意 授業テーマについて、配布資料プリントを熟読し、関連事項を調べるなどの予習に 2 時間、重要事項を覚えるなどの復習に 2 時間程度の学習が必要である。 ・課題等の結果は自己の弱点の強化、気づきに役立てること。全体的に間違いや問題の多かった項目については解説する。			

授 業 科 目 名	東洋医学方法論	科目の位置付け	Ⅱ－3－2－1,4
単 位 数	1 単位	時 間 数	15 時間
履 修 年 次	2 年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	平栗 辰也	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	東洋医学の基本的な概念について理解したうえで、看護・福祉における補完療法としての実際を学び、活用できる知識を身につけ、患者の治療の選択肢を増やすことができ、患者を診る視点が広がり、日頃の看護ケアや緩和ケアのレベルアップにつなげることができ。また各症状に対する具体的なツボ押しなどの手技療法やセルフケアの適正な助言・指導が行えることを目的とする。		
授業のキーワード	看護ケアに活用できる東洋医学のひとつとしての、あん摩、指圧やマッサージに関する知識を持つことで、東洋医学的視点をもって患者に接し活かせる。		
授業の到達目標	Ⅰ 看護における補完療法について理解できる。 Ⅱ 看護に活用できる東洋医学的に基本的な手技、考え方を理解できる。 Ⅲ 医療連携として、東洋医学の活用法を理解できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション：補完療法について	
	2	症状に対するケア①：全身倦怠感、精神安定 リラクゼーション	
	3	症状に対するケア②：便秘	
	4	症状に対するケア③：疼痛緩和（頭痛、肩こり、腰痛など）	
	5	症状に対するケア④：生理痛、冷え性	
	6	症状に対するケア⑤：呼吸を楽にする方法	
	7	症状に対するケア⑥：不眠、自律神経調整	
	8	実際に活用可能な場面を想定し、その場面に必要な手続き方法について	
教 科 書	プレゼンテーションでの提示やプリントを配布する。		
参考文献 其他資料	授業で必要に応じて、適宜紹介する。		
成績評価方法	定期筆記試験結果 80%、課題 10%、授業への取り組み姿勢・態度 10%を合計し評価する。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	履修にあたっての注意 授業テーマについて、配布資料プリントを熟読し、関連事項を調べるなどの予習 2 時間、重要事項を覚えるなどの復習に 2 時間程度の学習が必要である。 ・課題等の結果は自己の弱点の強化、気づきに役立てること。全体的に間違いや問題の多かった項目については解説する。		

授 業 科 目 名	公衆衛生学		科目の位置付け	Ⅱ－3－2－1,4,5
単 位 数	1 単位		時 間 数	30時間
履 修 年 次	2 年次 後期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	石黒 真美		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	公衆衛生学では、集団を対象として健康増進と疾患予防を取り扱う。公衆衛生学の概念と歴史を学ぶとともに、現在の保健活動を理解し、根拠に基づく健康政策（EBPH）を中心に、健康社会実現に向けて実践していくために必要な基礎知識を身につける。			
授業のキーワード	健康増進、疾患予防、公衆衛生学の概念と歴史、保健活動、根拠に基づく保健政策、健康社会			
授業の到達目標	Ⅰ 社会の中で疾病と健康を扱うための基礎知識を習得し、実践できる。 Ⅱ 科学的な研究方法である疫学およびEBPHの考え方を習得し説明できる。			
授 業 計 画	回	内 容		
	1	公衆衛生学序論：公衆衛生の意義、健康の定義		
	2	公衆衛生の歴史と発展		
	3	疫学の調査方法とエビデンス		
	4	成人保健と疾病予防及び健康管理 1		
	5	成人保健と疾病予防及び健康管理 2		
	6	成人保健と疾病予防及び健康管理 3		ミニテスト①
	7	環境保健Ⅰ：地球環境問題		
	8	環境保健Ⅱ：環境と健康 1		
	9	環境保健Ⅱ：環境と健康 2		
	10	母子保健：母子の健康保持増進		
	11	高齢者保健と高齢者の健康保持増進		ミニテスト②
	12	精神保健、難病対策、障害支援、国際保健		
	13	災害保健、学校保健、産業保健		
	14	感染症		ミニテスト③
15	歯科保健、公衆栄養			
教 科 書	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生 医学書院 「国民衛生の動向（最新版）」一般財団法人 厚生労働統計協会			
参考文献 その他資料	「公衆衛生がみえる 2024-2025」医療情報科学研究所編 メディックメディア 2024 参考となる資料を適宜配布する。			
成績評価方法	筆記試験結果（80％）、授業態度とミニテスト（20％）から総合的に評価する。			
履修条件	特になし			
備 考	講義を中心とし、ミニテストで獲得した知識の再確認を行いながら学習を展開する。 予習・復習に 1 時間程度の学習が必要である。講義の進行状況により、授業計画の内容を変更する場合がある。			

授 業 科 目 名	保健医療福祉システム論		科目の位置付け	Ⅱ－3－2－1,2,3,5
単 位 数	1 単位		時 間 数	15時間
履 修 年 次	2 年次後期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	平尾由美子、佐藤喜根子、森岡薫、佐藤浩一郎、鈴木博美、木島祐子			
授業の概要・目的	地域包括ケアの背景と変遷を知り、地域包括ケアシステムの意義と構造を理解する。看護職が病院や地域で保健医療福祉活動を実践していくために必要な制度や他機関、他職種の役割について理解する。さらに活動する地域特性に応じた健康支援サービスを提供するための方法について演習を通じて理解できる。			
授業のキーワード	地域包括ケアシステム、社会保障、医療保険、介護保険			
授業の到達目標	I 我が国の保健医療福祉システムの変遷としくみを説明できる II 地域包括ケアシステム構築に向けて、移行支援など様々な場所で関わる人々・専門職者の役割や連携のあり方を説明できる。 III 地域包括ケアの基本となる、地域特性の把握・分析方法を理解する。 IV 地域共生社会の実現に向けて現状と課題を考察し言語化できる			
授 業 計 画	回	内 容		担当者
	1	総論 保健医療システムの変遷と地域包括ケアシステム		平尾
	2	病院から施設・地域への高齢者の移行支援		森岡
	3	女性の健康の包括的支援システム		佐藤(喜)
	4	医療的ケア児の移行支援と自宅での支援		外部講師
	5	精神障害を持った人の地域での支援（アウトリーチ含む）		佐藤(浩)
	6	地域・在宅で活動する看護職からみた多職種連携		木島
	7	グループワーク テーマ：地域分析		鈴木(博) 木島 平尾
	8	発表		
教 科 書	なし			
参考文献 その他資料	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉 医学書院 王麗華他：共生社会を目指す地域包括ケア論 メヂカルフレンド社 荒神裕之他：看護の現場ですぐに役立つ地域包括ケアのキホン第2版 秀和システム その他適宜授業内で紹介する。			
成績評価方法	成績評価は、毎回のリフレクションペーパーの提出と質：各5点×8回＝40点、最終試験60点、合計100点満点とし、60点以上で単位を与える。			
履 修 条 件	特になし			
備 考	準備学修として、授業単元内容に関する参考文献や新聞記事等を良く読んでおくこと（予習1時間）。授業後は、授業内容と社会情勢等を関連づけて考察すること（復習1時間）。			

授 業 科 目 名	医療と倫理	科目の位置付け	Ⅱ－3－2－1,2,4
単 位 数	1単位	時 間 数	15時間
履 修 年 次	2年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	直江 清隆	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	現代の医療の進歩にともなって生じる問題は、これまで私たちが考えてきた、何が正しくて、何が正しくないのかに大きな変更を迫っている。医療について自分で決めるとはどういうこと？看取るとはどのようなこと？などの問いは人間のあり方そのものに関わっている。この授業では、医療倫理に関する問題について考えることを試みる。		
授業のキーワード	医療倫理、ケア、先端医療技術、尊厳死・安楽死		
授業の到達目標	Ⅰ 医療倫理の基本的なあり方が理解できるようになる。 Ⅱ 倫理的な観点から問いを立てることができるようになる。 Ⅲ 様々な意見を聞きつつ、自分なりに解決策を検討できるようになる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	医療の倫理とは？ 答えが出ない問いの大切さ	
	2	自分で決めるとは？ インフォームド・コンセント	
	3	患者主体の医療とは？ 医療情報とコミュニケーション	
	4	生殖補助技術はなにを問いかけるのか？	
	5	夢の技術はよいことづくめだろうか？ 再生医療とエンハンスメント	
	6	脳死は人の死だろうか？ 脳死と臓器移植	
	7	最後まで生きるとは？ ターミナルケア	
	8	安楽死は認められるだろうか？ 安楽死・尊厳死	
教 科 書	霜田求編「テキストブック 生命倫理」法律文化社		
参考文献 その他資料	資料は随時配布する。		
成績評価方法	試験レポート60%、中間レポート20%、授業への参加度20%		
履 修 条 件	特になし		
備 考	参加者が自ら考えることが大切です。授業中には、テーマに関連した配付資料やビデオ教材も使いながら講義しますが、毎回授業を復習し、考えを深めるため、教科書を読んで考える課題を出します。この課題の提出と授業中の発言によって授業への参加度を判定します。関連事項を調べるなどの予習に2時間、授業を振り返って考察をまとめるなどの復習に2時間程度の学習が必要になります。		

授 業 科 目 名	医療・福祉関係法規	科目の位置付け	Ⅱ－3－2－1,4
単 位 数	1 単位	時 間 数	15時間
履 修 年 次	2 年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	陶久 利彦	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	医療全般及び看護師関係法令の学習を通じて、看護師が備えるべき基本的な法的知を身につけ、国家試験対策を整える。		
授業のキーワード	国家による国民の生存・健康の法的保障制度・医療従事者特に看護師の責任		
授業の到達目標	Ⅰ 医療・社会保障・社会福祉などに関する国内外の知識と考え方を習得しそれらを自分の言葉で説明できるようになる。 Ⅱ 看護師の個別の行為がどのような法的根拠に基づいているのかを理解し、説明できるようになる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	第 1 章 ガイダンス（法学初歩並びに行政法の仕組み）	
	2	第 2 章 社会保障法	
	3	第 3 章 社会福祉関連法	
	4	第 4 章 公衆衛生と衛生統計	
	5	第 5 章 感染症法、生活環境の保全と予防に関する法	
	6	第 6 章 保健活動関連法①	
	7	第 7 章 保健活動関連法②	
	8	第 8 章 医療法、保健師助産師看護師法ほか、医療関連の法	
教 科 書	森山幹夫 『看護関係法令』 医学書院、最新版		
参考文献 その他資料	川口ちづる監修『これだけ！公衆衛生・関係法規』技術評論社、2016年。本書は最近の法令改正や統計資料をフォローしていないものの、試験対策教科書としてはよくできている。その他、各種統計資料と医療六法（最新版）。折々に、e-Gov 法令検索（e-gov.go.jp）を参照する。その他、ネット上での文献探索方法については授業中に適宜指示する。		
成績評価方法	毎回の課題（5 点× 8 回=40点 ）と定期試験（60点）による。毎回の授業に関連した課題は、基本的に授業の振り返りである。定期試験は国試と同様の形式とする。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	毎回の授業テーマについて、教科書の該当部分を読み、関連事項を調べるなどの予習に約 2 時間、授業内容をまとめ、重要事項を十分理解する等の復習に約 2 時間の学習が必要である。 毎回の課題については、次週に口頭又はその他の方法で解説をする。		

授 業 科 目 名	看護の基礎となる思考	科目の位置付け	Ⅲ－１－２－１,2,4
単 位 数	1単位	時 間 数	15時間
履 修 年 次	2年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	菊地 真、坂本 智恵子、佐藤 大介 (全員実務経験あり)	講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	本授業では、様々な看護理論から、看護の主要概念である人間・環境・健康・看護を理解する。さらに、看護理論を看護実践で活用する方法を学び、看護とは何かを考察する。 1年次に学習した看護実践に必要な専門的知識・技術を想起し、日常生活援助場面・診療援助場面で対象者に個別的で最良な看護を提供するための実践的思考を再確認する。		
授業のキーワード	看護理論、人間、環境、健康、看護、実践能力、状況判断能力		
授業の到達目標	I 看護理論の主要概念が理解できる。 II 看護を探究する姿勢を養う。 III 看護実践場面における状況判断能力を向上できる。 IV 他者と共同して問題解決する能力を向上できる。		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1	ガイダンス（授業内容、学習方法）、看護のメタパラダイム	菊地
	2	看護理論家と看護理論	菊地
	3	日常生活援助場面における思考①	菊地
	4	日常生活援助場面における思考②	菊地
	5	診療援助場面における思考①	菊地
	6	診療援助場面における思考②	菊地
	7	看護理論と看護実践場面における思考	菊地
	8	総括	菊地
教 科 書	系統看護学講座 基礎看護学〔1〕 看護学概論 医学書院		
参考文献 その他資料	黒田裕子 やさしく学ぶ看護理論 日総研 城ヶ端初子 実践に生かす看護理論19 サイオ出版 参考となる文献は適宜、授業で紹介・提示します。		
成績評価方法	課題レポート50%と授業への取り組み50%を合計し、評価します。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	授業前には単元範囲の教科書をよく読んでおくこと（予習1時間程度）。 また授業後には必ず教科書と配布資料を確認し、単元内容を整理すること（復習1時間）。 看護実践に必要な知識とその思考を確認するため、基礎看護学の既習範囲の看護師国家試験問題等の知識を復習しておいてください。		

授 業 科 目 名	地域・在宅看護援助論Ⅰ		科目の位置付け	Ⅲ－２－２－１,2,3,4,5
単 位 数	2 単位		時 間 数	30時間
履 修 年 次	2 年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	平尾 由美子、鈴木 博美、 木島 祐子（全員実務経験あり）		講 義 形 式	講義・演習
授業の概要・目的	地域・在宅における看護実践のために必要な知識と技術を学ぶ。在宅での暮らしを支える基本的看護技術の具体的方法と、対象者のライフステージ、疾患・状態に合わせた看護を学ぶ。			
授業のキーワード	地域・在宅看護技術、生活ケア、医療的ケア			
授業の到達目標	Ⅰ 暮らしを支える生活ケア実践における留意点と方法について説明できる。 Ⅱ 医療管理レベルの高い療養者の援助における留意点と方法について説明できる。 Ⅲ 介護保険サービス、訪問看護の特徴と方法について理解し説明できる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	オリエンテーション/介護保険制度・訪問看護制度の復習		平尾
	2	暮らしの場で看護をするための心構えー対象者と看護師のパートナーシップ、コミュニケーション		木島
	3	地域・在宅看護における家族を支える看護		平尾
	4	地域・在宅看護における安全をまもる看護		鈴木
	5	療養環境調整に関する地域・在宅看護技術		平尾
	6	食生活に関する地域・在宅看護技術		平尾
	7	食生活に関するアセスメント・経管栄養法・中心静脈栄養法		鈴木
	8	排泄に関する地域・在宅看護技術		平尾
	9	排尿・排便のアセスメント・環境整備/ストーマ・腹膜透析		平尾
	10	<演習>在宅酸素療法・人工呼吸器に関する看護技術		木島、鈴木 平尾、特別講師
	11			
	12	精神疾患をもつ療養者の地域・在宅での看護		木島
	13	創傷管理に関する地域・在宅看護技術		鈴木
	14	<演習>在宅経管栄養法・中心静脈栄養法に関する看護技術		鈴木、木島 平尾
15				
教 科 書	系統看護学講座 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践 医学書院			
参考文献 其他資料	授業内で適宜紹介する。			
成績評価方法	成績評価は、授業準備、参加態度（10%）、レポート（20%）、期末試験（70%）により評価する。			
履 修 条 件	在宅看護概論の単位を取得していること。			
備 考	1 回の授業につき 4 時間の学習が必要である。教科書や授業資料を活用し予習・復習を実施すること。課題レポートおよび試験結果の全体の傾向については、授業内や掲示でフィードバックする。			

授 業 科 目 名	地域・在宅看護援助論Ⅱ	科目の位置付け	Ⅲ－２－２－１,２,３,４,５
単 位 数	２単位	時 間 数	３０時間
履 修 年 次	２年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	平尾 由美子、鈴木 博美、 木島 祐子（全員実務経験あり）	講 義 形 式	講義・演習
授業の概要・目的	人々が地域において、自分なりの健康で、自分の望む暮らしを送ることができ、また病気になっても住み慣れた地域で暮らすことができ、望む最期を望む場所で遂げることができるという、対象者や家族の望みや願いをかなえる一助となる看護職の役割を考え、その技法を学ぶ。多機関・多職種との連携と協働、及び社会資源とその活用方法について理解を深める。		
授業のキーワード	地域包括支援センター、多職種連携、社会資源、看取り、在宅看護過程		
授業の到達目標	Ⅰ 地域で暮らす人々に対する、予防期から終末期までの時期別の看護の特徴と方法を説明できる。 Ⅱ 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる（地域包括ケアシステム）ために、看護職が果たす役割を理解する。多職種、多機関との連携の必要性と具体的方法について説明できる。 Ⅲ 地域での療養生活における社会的課題を把握し、その解決の一助となる新たな看護活動について理解する。 Ⅳ 地域・在宅看護過程の特徴を理解し、事例展開することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1	地域・在宅看護援助論Ⅰの復習/地域・在宅看護に関わる諸制度の復習	平尾
	2	地域包括支援センターの機能と業務	平尾
	3	在宅におけるケアマネジメント ケアマネジャーの役割と連携	平尾
	4	ケアプランの実際	平尾
	5	看護小規模多機能型居宅介護の特徴と看護の実際	平尾
	6	地域・在宅看護活動の創造－暮らしの保健室、様々な地域・在宅活動の展開例	木島
	7	多様な「自宅」での看取り（往診クリニック）	特別講師、平尾
	8	在宅看護における倫理	鈴木
	9	〈演習〉福祉機器を活用した環境調整の実際	鈴木、木島 平尾、特別講師
	10		
	11	ICF の概念と在宅看護への活用	平尾
	12	在宅における看護過程- 実践編①	平尾
	13	在宅における看護過程- 実践編②	平尾
	14	地域共生社会の具現化- 多世代交流型複合施設「アンダンチ」	特別講師、平尾
	15	看護過程まとめ、全体のまとめ	平尾
教 科 書	系統看護学講座 地域・在宅看護論〔１〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論〔２〕 地域・在宅看護の実践 医学書院		
参考文献 その他資料	授業の中で適宜紹介する。		
成績評価方法	成績評価は、授業準備、参加態度（１０％）、レポート（２０％）、定期試験（７０％）により評価する。		
履 修 条 件	「地域・在宅看護概論」、「地域・在宅看護援助論Ⅰ」の単位を取得していること。		
備 考	１回の授業につき４時間の学習が必要である。授業前に必ず教科書の該当部分を読み、授業資料等を活用し予習・復習を実施すること。課題レポートおよび試験結果については、授業内や掲示でフィードバックする。		

授 業 科 目 名	成人看護学援助論Ⅰ（慢性期）		科目の位置付け	Ⅲ－3－2－1,2,3,4,5
単 位 数	2単位		時 間 数	30時間
履 修 年 次	2年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	安倍 藤子、岩渕 起江、森岡 薫、佐藤 文枝、 島倉 蓉子、越川 暢恵（全員実務経験あり）		講 義 形 式	講義・演習
授業の概要・目的	成人の健康レベルに対応した看護を理解する。成人期の健康の保持増進のための看護、症状の急性増悪期や慢性期（健康生活への継続）、リハビリテーション期（生活の再構築）、終末期（人生の最期を迎える人とその家族へのケア）における看護の特性を学習し、看護技術を習得する。また、退院支援や地域・在宅への継続のための看護について、講義・演習を通して学ぶ。			
授業のキーワード	慢性の疾患を有する人への看護、機能障害がある人の看護、家族へのケア、がん看護、セルフマネジメント、エンド・オブ・ライフ・ケア、退院支援			
授業の到達目標	Ⅰ 慢性疾患をもつ人とその家族の特徴を理解し、看護の基礎的知識を習得することができる。 Ⅱ 慢性疾患をもち疾病コントロールおよび生活の調整を必要とする人への看護援助（セルフケア支援）方法を説明できる。 Ⅲ 慢性疾患をもつ人および終末期にある人とその家族を支援するために必要な看護技術を習得することができる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	オリエンテーション、慢性期看護とは セルフマネジメント能力を高める支援		安倍
	2	エンド・オブ・ライフ・ケア、緩和ケアとは、意思決定を支えるケア		佐藤
	3	慢性疾患の主な治療法と治療を受ける人とその家族への援助： がん化学療法、放射線療法を受ける患者の看護 がんとともに生きるセルフマネジメント支援		外部講師
	4	家族へのケアとグリーフケア、自分自身のケア		外部講師
	5	全人的苦痛のアセスメントとそのケア		佐藤
	6	慢性の生体防御機能障害を有する人とその家族への援助：血液・免疫系		岩渕
	7	慢性の神経機能障害を有する人とその家族への援助：脳・神経系		岩渕
	8	慢性の代謝機能障害を有する人とその家族への援助：腎・泌尿器系人工透析を受ける患者の看護		岩渕
	9	慢性の呼吸機能障害を有する人とその家族への援助：呼吸器系（気管支喘息、慢性呼吸不全）、ステロイド療法を受ける患者の看護		岩渕
	10	慢性の呼吸機能障害を有する人とその家族への援助：呼吸器系（肺がん）		安倍
	11	慢性の循環機能障害を有する人とその家族への援助：循環器 虚血性心疾患、不整脈、心不全）、ペースメーカーを装着している患者の看護		森岡

授 業 計 画	12	慢性の代謝機能障害を有する人とその家族への援助：糖尿病 インスリン療法を受ける患者の看護	安倍
	13	慢性の代謝機能障害を有する人とその家族への援助：脂質異常症、甲状腺 機能障害	安倍
	14	慢性の消化機能障害を有する人とその家族への援助：消化器系（消化管疾 患、肝臓病	森岡
	15	まとめ	岩渕
教 科 書	成人看護学 慢性期看護 改訂第4版 南江堂 成人看護学 成人看護技術 改定第3版 南江堂 ナーシング・グラフィカ 成人看護学③セルフマネジメント 第4版 メディカ出版 緩和ケア 改訂第3版 南江堂		
参考文献 その他資料	ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版（1年次使用教 科書） 系統看護学講座 別巻 がん看護学 第2版 医学書院		
成績評価方法	評価は以下の2点を総合して行う。 筆記試験（80%）、学習への取り組み・成果（20%） やむを得ない理由による欠席の場合は、前もって連絡し、学生自らの申し出により別途設 定する補講等を受講すること。		
履 修 条 件	「成人看護学概論」の単位を取得していること。		
備 考	【受講開始前】 既習の形態機能学（内分泌代謝、腎臓、循環器、消化器、呼吸器、脳神経の正常な機能） と疾病治療論（糖尿病、慢性腎臓病、循環器疾患、肝臓病、炎症性腸疾患、大腸がん、 COPD、白血病、脳梗塞など）の復習をしておく。慢性期の事例の理解を深めるために、 各種疾患に関わる病態について60分～90分程度の予習をする。 【受講開始後】 本科目は成人・高齢者看護学実習に直結する。60分程度の復習の時間を設け、講義内容 の要約を記録し、授業で提示する参考文献のなかで関心のあるものを読み理解を深めた 上で取り組むことを勧める。 ※課題学習は、提出を受け、担当教員が内容を確認後に返却する。理解促進のために、 必要時はコメントの記入、対面による疑問点の解消の機会を持つ。		

授 業 科 目 名	成人看護学援助論Ⅱ（急性期・回復期）		科目の位置付け	Ⅲ－3－2－1,2,3,4,5
単 位 数	2単位		時 間 数	60時間
履 修 年 次	2年次 通年		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	安倍 藤子、森岡 薫、岩渕 起江、熊田 真紀子、 佐藤 文枝、佐藤 大介、島倉 蓉子、越川 暢恵 （全員実務経験あり）		講 義 形 式	講義・演習
授業の概要・目的	疾病治療論ⅠからⅣで学習した知識を基礎に、成人の疾病によっておこる様々な機能障害がもたらす生活への影響や健康問題に対する看護援助について、講義演習を通じて理解する。 具体的には各機能（呼吸機能、循環機能、消化・吸収機能、栄養代謝機能、内部環境調節機能、身体防御機能、感覚機能、脳・神経機能、運動機能、性・生殖機能）の障害がある人の特徴を踏まえた看護について学習する。また、看護過程の展開として事例を取り上げ、対象を理解するためのアセスメント、看護問題の抽出、看護援助計画と評価、必要な看護援助技術について学習する。			
授業のキーワード	周手術期の看護、麻酔による侵襲、成人看護学における看護過程の展開、成人看護学技術			
授業の到達目標	Ⅰ 急性期および回復期の看護の基礎的知識を習得することができる。 Ⅱ 周手術期にある人の治療過程に応じた看護援助を説明できる。 Ⅲ 生命の危機状態にある人および侵襲的治療を受ける人とその家族の特徴（心身の反応と社会面への影響）を理解できる。 Ⅳ 生命の危機状態にある人および侵襲的治療を受ける人の治癒過程に合わせた適切な看護援助が提供できるために、必要な看護技術を習得することができる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	オリエンテーション 急性期看護とは、周手術期看護とは		安倍
	2	手術期の看護（術前検査と看護援助）		佐藤大介
	3	手術期の看護（手術侵襲と生体反応、麻酔の影響、手術中の看護、手術終了時の看護）		佐藤大介
	4	手術後期の患者へのケア①（術後合併症：意識、呼吸、循環）		佐藤大介
	5	手術後期の患者へのケア②（術後合併症：疼痛、術後感染、消化器、精神）		佐藤大介
	6	手術後期の患者へのケア③（早期離床、退院に向けた指導・支援）		安倍
	7	周手術期における援助＜消化機能障害のある人の手術①＞		安倍
	8	周手術期における援助＜消化機能障害のある人の手術②＞		安倍
	9	事例学習① 情報収集～看護アセスメント・関連図		安倍
	10	事例学習② 看護の方針・看護問題抽出		安倍
	11	事例学習③ 問題点の明確化まで発表		安倍、森岡
	12	事例学習④ 看護計画立案		安倍
	13	事例学習⑤ 看護計画の発表		安倍、森岡
	14	事例学習⑥ 退院に向けた指導・支援① 指導案の作成		安倍、森岡

授 業 計 画	15	事例学習⑦ 退院に向けた指導・支援② ロールプレイング	安倍、岩渕 森岡、佐藤 島倉、越川
	16	生命の危機状態にある患者の看護：ショック	熊田
	17	周手術期における援助＜脳神経系に機能障害のある人の手術＞	岩渕
	18	周手術期における援助＜呼吸機能障害のある人の手術＞	岩渕
	19	生命の危機状態にある患者と家族の看護①（救急外来）	熊田
	20	生命の危機状態にある患者と家族の看護②（ICU・CCU）	熊田
	21	周手術期における援助＜循環機能障害のある人の手術＞①	岩渕
	22	周手術期における援助＜循環機能障害のある人の手術＞② 心電図モニター	岩渕
	23	技術演習 ①術後観察	島倉、越川 安倍、岩渕 森岡、佐藤
	24		
	25	周手術期における援助＜運動機能障害のある人の手術＞	岩渕
	26	技術演習 ②早期離床の援助	越川、島倉 安倍、岩渕 佐藤、森岡
	27		
	28	技術演習 ③BLS	佐藤、越川 島倉、安倍 岩渕、森岡 熊田
	29		
	30	急性期看護のまとめ	安倍
教 科 書	成人看護学 急性期看護Ⅰ 改訂第4版 南江堂 成人看護学 成人看護技術 改訂第3版 南江堂		
参考文献 その他資料	成人看護学 慢性期看護 改訂第4版 南江堂 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版（1年次使用教科書） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 そのほか講義中に提示する。		
成績評価方法	評価は以下の2点を総合して行う。 筆記試験（60%）、事例学習への取り組み、技術演習への取り組み・成果（40%） やむを得ない理由による欠席の場合は、前もって連絡し、学生自らの申し出により別途 設定する補講等を受講すること。		
履 修 条 件	「成人看護学概論」の単位を取得し、「成人看護学援助論Ⅰ」を履修していること。		
備 考	【受講開始前】 急性期の事例の理解を深めるために、各種疾患に関わる病態について60分～90分程度の予習をする。 【受講開始後】 本科目は成人・高齢者看護学実習に直結する。60分程度の復習の時間を設け、講義内容の要約を記録し、疑問点を明確にした上で、次回の授業に臨むこと。また、授業の中で提示する国家試験の過去出題問題については、根拠を考えながら、繰り返し取り組むことを勧める。 ※課題学習は、提出を受け、担当教員が内容を確認後に返却する。理解促進のために、必要時はコメントの記入、対面による疑問点の解消の機会を持つ。		

授 業 科 目 名	高齢者看護学援助論Ⅰ		科目の位置付け	Ⅲ－４－２－１,2,3,4,5
単 位 数	1 単位		時 間 数	30時間
履 修 年 次	2 年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	森岡 薫、佐藤 文枝（全員実務経験あり）		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	高齢期にある人の健康障害がその人と家族に及ぼす影響を理解した上で、具体的な看護援助の方法を学習する。高齢期にある人の生活機能を整える意味を考え、特徴を踏まえたアセスメントの方法を学ぶ。認知機能や高齢者特有の身体症状に対するアセスメント方法を理解し、生活を支える看護について学習する。また検査や治療を受ける高齢者への看護、廃用症候群についても学習する。			
授業のキーワード	ヘルスアセスメント、高齢者総合機能評価（CGA）、廃用症候群、生活機能、認知症高齢者、加齢による生理的变化			
授業の到達目標	Ⅰ 高齢期にある人の健康障害がその人と家族に及ぼす影響を説明できる。 Ⅱ 高齢期にある人の生活史を含めたアセスメントの留意点について説明できる。 Ⅲ 生活機能を整える看護の意味を理解し説明できる。 Ⅳ 高齢期にある人の特徴を踏まえたアセスメントの要点を説明できる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	高齢者のヘルスアセスメント①アセスメントの基本、枠組み		森岡
	2	高齢者のヘルスアセスメント②-1 身体の高齢変化とアセスメント		森岡
	3	高齢者のヘルスアセスメント②-2 身体の高齢変化とアセスメント		森岡
	4	高齢者の生活機能を整える看護①- 1 食事		佐藤（文）
	5	高齢者の生活機能を整える看護①- 2 食事		佐藤（文）
	6	高齢者の生活機能を整える看護②排泄		佐藤（文）
	7	高齢者の生活機能を整える看護③日常生活を支える活動、廃用症候群		森岡
	8	高齢者の生活機能を整える看護④生活リズム		森岡
	9	高齢者の生活機能を整える看護⑤清潔、コミュニケーション		佐藤（文）
	10	高齢者の生活機能を整える看護⑥セクシュアリティ、社会参加		森岡
	11	高齢者の生活機能を整える看護⑦- 1 認知機能低下のみられる高齢者への支援		佐藤（文）
	12	高齢者の生活機能を整える看護⑦- 2 認知機能低下のみられる高齢者への支援		佐藤（文）
	13	生活・療養の場における看護		森岡
	14	治療を必要とする高齢者の看護①検査、薬物療法、手術を受ける高齢者		森岡
15	治療を必要とする高齢者の看護②リハビリテーション、入院治療、退院支援		森岡	
教 科 書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院			
参考文献 その他資料	授業の中で適宜提示、紹介する。			
成績評価方法	定期試験（80％）とレポート・ミニテスト（10％）、授業態度（10％）を総合的に評価する。			
履 修 条 件	高齢者看護学概論の単位を取得していること。			
備 考	単元について教科書を読んだ上で授業に臨むこと。 配布資料の内容は必ず理解・習得すること。予習・復習、演習レポートの作成を含め週1時間以上の学習が必要である。課題レポートおよび受講後の質問等については、授業内や掲示でフィードバックする。			

授 業 科 目 名	高齢者看護学援助論Ⅱ	科目の位置付け	Ⅲ－４－２－１,2,3,4,5
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	2年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	森岡 薫、佐藤 文枝（全員実務経験あり）	講 義 形 式	講義・演習
授業の概要・目的	高齢者に多くみられる疾患とその症状に応じた看護援助を理解する。また褥瘡予防、エンドオブライフケアやリスクマネジメントについて理解を深め、高齢者に多い複合的機能障害について学習を進める。地域資源を活用した高齢者の退院支援や家族への支援について理解し必要なアセスメントの方法の実際を学ぶ。 生活機能に視点をおいたアセスメント方法を事例を通して学び、看護過程を展開し演習を行うことで高齢者の看護に必要な看護技術を習得する。		
授業のキーワード	高齢者の疾患、生活機能、エンドオブライフケア、高齢者のリスクマネジメント、高齢者の看護過程		
授業の到達目標	I 高齢者に多くみられる疾患と症状に対する看護のポイントを説明できる。 II 高齢者の日常生活を支援する看護のポイントを説明できる。 III エンドオブライフケアの概念を理解し、意思決定支援における看護師の役割を説明できる。 IV 高齢者とその家族を支援するための、地域資源を活用した看護過程を事例から展開できる。		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1	健康逸脱からの回復を促す看護①症候のアセスメントと看護：発熱、脱水、浮腫等	森岡
	2	健康逸脱からの回復を促す看護②症候のアセスメントと看護：褥瘡	森岡
	3	健康逸脱からの回復を促す看護③脳卒中、心不全、糖尿病	森岡
	4	健康逸脱からの回復を促す看護④骨粗鬆症、骨折	森岡
	5	高齢者の心身の理解①高齢者疑似体験	森岡・佐藤（文）
	6	高齢者の心身の理解②高齢者疑似体験	森岡・佐藤（文）
	7	エンドオブライフケア①	佐藤（文）
	8	エンドオブライフケア②	佐藤（文）
	9	高齢者のリスクマネジメント	森岡
	10	高齢者の看護過程①事例紹介	森岡・佐藤（文）
	11	高齢者の看護過程②演習	森岡・佐藤（文）
	12	高齢者の看護過程③演習	森岡・佐藤（文）
	13	高齢者の看護過程④演習	森岡・佐藤（文）
	14	高齢者の看護過程⑤演習	森岡・佐藤（文）
	15	高齢者の看護過程⑥演習	森岡・佐藤（文）
教 科 書	系統看護学講座 老年看護学 医学書院		
参考文献 その他資料	授業の中で適宜提示・紹介する。		
成績評価方法	定期試験（60％）、演習への取り組み（20％）、レポート・ミニテスト（10％）、授業態度（10％）を総合的に評価する。		
履 修 条 件	高齢者看護学概論の単位を取得していること。		
備 考	単元について教科書を読んだ上で授業に臨むこと。配布資料の内容は必ず理解・習得すること。 予習・復習、演習レポートの作成を含め週4時間以上の学習が必要である。 課題レポートおよび受講後の質問等については、授業内や掲示でフィードバックする。		

授 業 科 目 名	小児看護学援助論Ⅰ	科目の位置付け	Ⅲ－５－２－１,2,3,4,5
単 位 数	1単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	2年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	井上 由紀子、高橋 育子（全員実務経験あり）	講 義 形 式	講義・演習
授業の概要・目的	子供の成長・発達を理解し発達段階に応じた看護を理解する。 病気や障害を持つ子供および健康な子供への日常生活の援助について具体的に学ぶ。 さらに、子供にかかわる社会状況および小児保健の動向を理解する。		
授業のキーワード	セルフケア、成長・発達・日常生活の援助、小児保健、子供の権利擁護		
授業の到達目標	Ⅰ 小児保健、小児看護にかかわる看護師の役割を理解できる。 Ⅱ 子供の権利を理解し説明することができる。 Ⅲ 子供の成長、発達を踏まえた日常生活の援助を理解できる。 Ⅳ 安全安楽な援助技術が提供するための、根拠と方法を説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1	小児保健 1 母子保健、医療費支援	井上
	2	小児保健2 臓器移植法、発達障害者支援法、特別支援教育、療育等	井上
	3	日常生活の援助 1 子供の養育、保育、安全、	井上
	4・5	日常生活の援助 2 栄養	高橋
	6	日常生活の援助 3 排泄、睡眠、清潔、衣生活	井上
	7	日常生活の援助 4 運動と遊び	高橋
	8・9	日常生活の援助 5 緊急時の対応	高橋
	10・11	子供のQOL 子供の権利擁護と看護の役割①	井上
	12	看護援助 1：小児臨床看護の特徴、子供と家族のアセスメント	井上
	13	症状とケア技術 1：発熱、嘔吐、下痢、脱水	井上
	14	症状とケア技術 2：呼吸困難、チアノーゼ、痙攣、意識障害	井上
	15	症状とケア技術 3：検査・処置、与薬の援助	井上
教 科 書	系統看護学講座 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院		
参考文献 その他資料	ナーシング・グラフィカ 小児看護学〔1〕 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学〔2〕 小児看護技術 メディカ出版		
成績評価方法	筆記試験80%、課題・演習への取り組み20%を総合的に評価する。		
履 修 条 件	「小児看護学概論」の単位を取得していること。		
備 考	関連書籍も積極的に活用し理解できない部分を明確にして授業に臨み（予習1時間程度）、 授業終了後は、事前学習で理解できなかった部分を解消し、さらに発展的学習で学びを深めること（復習2時間程度）。演習は事前に指示された身だしなみで臨むこと。適切でない場合は演習への参加は認めない場合もあるので留意すること。 演習への不参加、事前連絡なしでの提出物の遅延・未提出については原則評価対象外とする。		

授 業 科 目 名	小児看護学援助論Ⅱ	科目の位置付け	Ⅲ－5－2－1,2,3,4,5
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	2年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義・演習		
担 当 教 員	井上 由紀子、高橋 育子（全員実務経験あり） 木村 正人、福與 なおみ、虻川 大樹、北沢 博、桜井 博毅、佐藤 篤、森本 哲司		
授業の概要・目的	小児の疾病や障害の診断・治療について理解する。 疾病や障害を持つ子供の看護過程を展開する方法と具体的な援助について学習する。 疾患や障害をもつ子供の家族への支援について学ぶ。		
授業のキーワード	小児臨床看護、症状ケア、子供と家族の看護、小児疾病論、職種間連携、移行期支援		
授業の到達目標	Ⅰ 小児の疾病や障害の特性、小児が各時期に持つ課題について理解をすることができる。 Ⅱ 病気や障害を持つ子供と家族の具体的な支援方法を学ぶ。 Ⅲ 安全安楽な援助技術を習得する Ⅳ 入院が子供に及ぼす影響、職種間連携、看護師の役割について説明できる。 Ⅴ 小児領域の重要な疾病について、症状・病態・診断・治療・予後、等が説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1	小児疾病論1：循環器疾患	木村
	2	小児疾病論2：神経疾患・発達障害、小児在宅医療	福與
	3	小児疾病論3：消化器疾患	虻川
	4	小児疾病論4：アレルギー・免疫疾患、代謝性疾患	北沢
	5	小児疾病論5：感染症・呼吸器疾患	桜井
	6	小児疾病論6：血液・腫瘍疾患	佐藤
	7	小児疾病論7：腎疾患、内分泌疾患	森本
	8	看護援助2：子供の入院	井上
	9	看護援助3：痛み、緩和ケア	井上
	10	看護援助4：子供のきょうだいと家族の支援	井上
	11	看護援助5：移行期支援、退院支援、職種間連携	井上
	12・13	疾病をもった子供の援助1 急性期（看護過程の展開）	高橋
	14・15	疾病をもった子供の援助2 慢性期（看護過程の展開）	高橋
教 科 書	系統看護学講座 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院		
参考文献 その他資料	ナーシング・グラフィカ 小児看護学〔1〕小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学〔2〕小児看護技術 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学〔3〕小児の疾患と看護 メディカ出版 リンダ J.カルペニート 看護診断ハンドブック第11版 医学書院		
成績評価方法	筆記試験70%、課題への取り組み30%を総合的に評価する。		
履 修 条 件	「小児看護学概論」の単位を取得し「小児看護学援助論Ⅰ」を履修していること。		
備 考	関連書籍も積極的に活用し理解できない部分を明確にして授業に臨み（予習1時間程度）、授業終了後は、事前学習で理解できなかった部分を解消し、さらに発展的学習で学びを深めること（復習2時間程度）。 疾病治療論の講義などでも小児期特有の疾患について理解を深め、臨地実習の基礎とすること。 事前連絡なしでの提出物の遅延・未提出については原則評価対象外とする。		

授 業 科 目 名	母性看護学援助論Ⅰ		科目の位置付け	Ⅲ－6－2－1,2,3,4,5
単 位 数	1 単位		時 間 数	30時間
履 修 年 次	2 年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	佐藤 喜根子、青野 都（全員実務経験あり）		講 義 形 式	講義・演習
授業の概要・目的	女性生殖器の解剖と機能を理解する。そのうえで、妊娠・分娩・産褥・胎児/ 新生児期の各期における母児の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、母児とその家族のウェルネスに向けた看護を展開していくのに必要な基礎的知識を学ぶ。またマイナートラブルを理解し、予防的看護について学習する。			
授業のキーワード	女性生殖器・周産期にある女性・胎児/新生児・マイナートラブル・エンパワーメント			
授業の到達目標	Ⅰ 卵巣・子宮を中心に女性生殖器の解剖と機能を理解し、説明できる。 Ⅱ 周産期にある女性（妊婦・産婦・褥婦）の身体的、心理・社会的特徴を理解し、説明できる。 Ⅲ 新生児期にある対象の身体的特徴を理解し、説明できる。 Ⅳ 妊娠・分娩・産褥各期・新生児に見られる異常について理解し、予防等の説明ができる。			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	卵巣・子宮を中心に女性生殖器の解剖と機能		佐藤
	2	妊娠期における看護（１）妊娠の成立・胎児の成長と母体の変化と健康管理		佐藤
	3	妊娠期における看護（２）胎児のwell-beingと出産準備教育		佐藤
	4	妊娠期における看護（３）ハイリスク妊婦と看護の要点		佐藤
	5	分娩期における看護（１）分娩の３要素・分娩第Ⅰ期の経過と看護		佐藤
	6	分娩期における看護（２）分娩第Ⅱ期・Ⅲ期の経過と看護		佐藤
	7	分娩期における看護（３）分娩時の異常		佐藤
	8	新生児期における看護（１）出生直後の看護と子宮外適応機能 ミニテスト①		佐藤
	9	産褥期における看護（１）褥婦のフィジカルアセスメントと看護		青野
	10	産褥期における看護（２）褥婦のメンタルヘルスと看護		青野
	11	産褥期における看護（３）褥婦を取り巻く家族や社会的環境と看護		青野
	12	産褥期における看護（４）ハイリスク褥婦の管理		青野
	13	新生児期における看護（２）早期新生児のアセスメントと看護 ミニテスト②		青野
	14	リプロダクティブヘルス/ ライツ（１） （子宮内膜症・子宮筋腫・子宮がん等）		青野
15	リプロダクティブヘルス/ ライツ（２） （不妊症・不妊治療・遺伝相談等）		佐藤	
教 科 書	系統看護学講座 母性看護学〔２〕 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔９〕 女性生殖器 医学書院			
参考文献 其他資料	参考書は、授業の内容及び学生の要望に応じて、適宜紹介する。 他に講義資料は随時提供する。			
成績評価方法	ミニテスト(20%)、定期試験での評価(80%)を合計して評価する。			
履 修 条 件	「母性看護学概論」を履修し、所定の単位を取得していること			

備 考	1. 母性看護学は次世代育成に関連し、国家の基盤にも関わる分野です。本講義を通して、その意味を理解し必要な基礎知識を習得してほしい。 2. 本講義では、周産期にある女性と胎児・新生児を取り扱うが、合併疾患を有するハイリスク者も多いので、周産期以外の疾患についてもしっかり学び、関連性を理解してほしい。 3. ミニテストは知識の定着を確認するために、事前予告して実施する。 4. 母性看護学では主に周産期にある女性と胎児・新生児を取り扱うが、妊産褥期の特徴を把握し、2年および3年の臨地実習へつなげてほしい。 5. 各授業内容については、予習・復習を各々1時間を目途に学びを深めること。 ※疑問・質問・意見はいつでもメールで受け付け、回答致します。積極的に臨んでください。
------------	--

授 業 科 目 名	母性看護学援助論Ⅱ	科目の位置付け	Ⅲ－6－2－1,2,3,4,5
単 位 数	2単位	時 間 数	60時間
履 修 年 次	2年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	佐藤 喜根子、青野 都（全員実務経験あり）	講 義 形 式	講義・演習
授業の概要・目的	マタニティサイクルにおける女性と新生児、およびその家族の特徴を理解し、ウェルネスの観点から、周産期の健康課題や健康問題に対して基礎的な看護援助方法（看護過程、フィジカルアセスメント、保健指導）を学ぶ。		
授業のキーワード	妊産褥婦、新生児、家族、看護援助方法、ウェルネス		
授業の到達目標	I 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常な経過が説明できる。 II 周産期にある母子および家族に役割獲得過程も含めて看護過程の展開を実施し、様々な援助方法を理解し、看護支援ができる。 III 妊婦のレオポルド触診法・胎児心音聴取法、褥婦の全身状態の観察、新生児の全身状態の観察および沐浴等の技術が習得できる。また、つぼや指圧法などの支援技術も学ぶ。		
授 業 計 画	回	内 容	担当教員
	1・2	オリエンテーション 母性看護学で展開するウェルネス型看護過程の特徴について（実在型・リスク型・ヘルスプロモーション型・シンドローム型との違い） 看護過程の演習	佐藤
	3	妊婦のフィジカルアセスメントとメンタルヘルス、妊婦を取り巻く家族や環境をアセスメント（周産期に受ける健康診査、健康教育や母子保健サービス制度について）し、看護支援の方法を学ぶ。	佐藤
	4	産婦のフィジカルアセスメント（分娩の3要素と分娩経過）、出生直後の新生児の健康状態をアセスメントし、看護支援の方法を学ぶ。	佐藤
	5	褥婦のフィジカルアセスメント（退行性変化と進行性変化、全身状態の回復とメンタルヘルス）褥婦を取り巻く家族のメンタルヘルスや役割獲得過程についてアセスメントし、看護支援の方法を学ぶ。	青野
	6	早期新生児期のフィジカルアセスメントをし、看護支援の方法を学ぶ。	青野
	7	周産期におけるアセスメントの総復習（知識習熟度テスト）と解説	佐藤 青野
	8・9	事例（経膈分娩）を示し、看護過程展開の要点の解説	佐藤 青野
	10・11	事例A（経膈分娩）から褥婦と新生児の健康状態について看護過程を展開し、看護支援のポイントを学ぶ	佐藤 青野
	12～15	事例B（ハイリスク妊婦）から褥婦と新生児の健康状態について看護過程を展開し、看護支援のポイントを学ぶ。	佐藤 青野
	16～19	・帝王切開術の適応と術後管理の説明 ・事例C（帝王切開術後の褥婦・新生児）から褥婦と新生児の健康状態について看護過程を展開し、看護支援のポイントを学ぶ。	佐藤 青野

授 業 計 画	20～29	母性看護技術演習 ①妊婦健診、レオポルド触診法、妊婦体験 ②褥婦の観察、 ③新生児の全身状態の観察、沐浴等 他にツボや指圧法を演習し、 スキルを獲得する	佐藤 青野
	30	授業の総括	佐藤 青野
教 科 書	系統看護学講座 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院		
参考文献 その他資料	参考書は、授業の内容及び学生の要望に応じて、適宜紹介する。		
成績評価方法	知識習熟度テスト（20％）、看護過程演習（30％） 筆記試験（50％）で評価する。		
履 修 条 件	「母性看護学概論」「母性看護学援助論Ⅰ」を履修し、所定の単位を取得していること		
備 考	1. 問題解決型思考からウェルネス型の看護過程思考を学び理解を深めます。 2. 自然治癒力を賦活する東洋医学的な技術を学び、セルフケア支援に生かします。 3. 技術演習などの準備状況として、関連事項を調べるなど予習には1時間程度の学習が必要です。 4. 次世代を育む分野であり、少子化に歯止めがかかるような支援につなげる援助論にしたいと考えています。 ※疑問・質問・意見はいつでもメールで受け付け、回答いたします。 積極的に臨んでください。		

授 業 科 目 名	精神看護学援助論Ⅰ		科目の位置付け	Ⅲ－７－２－１,2,3,4,5
単 位 数	２単位		時 間 数	40時間
履 修 年 次	２年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	佐藤 浩一郎、金野 明子（全員実務経験あり） 上野 草太		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	本領域では、精神疾患や精神症状を理解し、看護援助のあり方を学びます。精神看護における援助の考え方として、患者－看護者関係やこころを病む人への看護とかかわり方について理解を深めます。さらにこころの健康の保持増進への援助を思考や行動、感情等を対人関係のプロセスのなかで理解し、精神障がい者がその人らしく生きることをどのように援助できるかを考えてゆきます。患者のセルフケア援助や患者家族の理解と援助についても、看護倫理と共に理解を深めてゆきます。精神障がい者が社会生活を営む上で、社会問題が精神的健康や日常生活に与える影響についても考察してゆきます。			
授業のキーワード	こころを病む人への理解、精神障がい者との共生、統合失調症、抑うつ障害群、リカバリー、セルフケア理論、アウトリーチ、地域生活支援、リエゾン、家族支援、災害時の精神看護、医療安全			
授業の到達目標	I こころを病む人の特徴を理解し、精神障害により日常生活に影響する要因を考えることができる II 精神障がい者と差別について考え、精神障がい者との共生社会の実現に向けて創造性と想像性豊かな理解をすることができる III 精神看護における主要な看護理論を理解することができる IV 主な精神疾患・精神症状について学び、その病態、メカニズム、診断方法、治療、看護、回復過程等について理解することができる V 精神障がい者にも対応した地域包括という観点から、その人らしい生活を営めるよう精神保健医療福祉の法律と制度について、その活用方法の知識を深めることができる VI 精神科病棟における環境と安全管理、倫理について説明することができる			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	精神科治療論１：生物学的側面からの理解１ 脳の構造と機能、主な検査		上野
	2	精神科治療論２：生物学的側面からの理解２ 診断基準と主な治療		上野
	3	精神科治療論３：統合失調症等		上野
	4	精神科治療論４：うつ病、双極性障害等 神経性障害、ストレス関連障害および身体症状等（１）		上野
	5	精神科治療論５：うつ病、双極性障害等 神経性障害、ストレス関連障害および身体症状等（２）		上野
	6	精神科治療論６：認知症等		上野
	7	精神科治療論７：アルコール依存症、薬物依存症、摂食障害、パーソナリティ障害等		上野
	8	精神看護学総論 こころを病む人への看護とかかわり方（１）		金野
	9	こころを病む人への看護とかかわり方（２） リカバリー・レジリエンス・ストレングス・エンパワーメント他		佐藤

授 業 計 画	10	精神障害と共生、生活機能モデルと精神看護の主要概念	金野
	11	精神科的治療と看護 (診察、検査、薬物療法、精神療法、精神科リハビリテーション療法等)	金野
	12	こころを病む人への看護ー統合失調症・他の関連障害群のある人への看護	佐藤
	13	こころを病む人への看護ー双極性障害および関連障害群・抑うつ障害群のある人への看護	佐藤
	14	こころを病む人への看護ー不安症群／不安障害群・強迫症および関連症群・強迫性障害および関連障害群・他の関連障害群のある人への看護	佐藤
	15	地域生活を支える精神看護（障害者総合支援法、他）	佐藤
	16	地域生活を支える精神看護（多職種連携、アウトリーチ・訪問支援、就労支援、他）	佐藤
	17	精神障害と家族支援 リエゾン精神看護	金野
	18	医療安全 リスクマネジメント	金野
	19	災害時の精神看護	佐藤
	20	精神看護における看護理論ーセルフケア理論・人間関係の看護論等	金野
教 科 書	看護学テキストNiCE 精神看護学Ⅰ こころの健康と地域包括ケア 改訂第3版 南江堂 看護学テキストNiCE 精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版 南江堂		
参考文献 その他資料	看護のための精神医学 中井久夫 医学書院 ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 メジカルフレンド社 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社 その他 授業の展開に合わせて適宜紹介する		
成績評価方法	定期試験（100％）		
履 修 条 件	精神看護学概論を履修・単位取得済みであること		
備 考	授業単元の内容部分については事前によく読んでおくこと。 課題レポートについては、参考書のコピーのみではなく自らの考えをきちんと記述すること。1回の授業につき、毎回2時間以上の予習・復習をすること。 レポート課題や試験での誤解の多い問題等には全体に向けて解説します。各授業終了後の質問や感想等には、個別及び全体に向けて回答しながらフィードバックをします。 授業では、『精神看護とは何か』というテーマを基盤に、臨床的な出来事を取り上げながら展開してゆきます。 現在の姿である精神保健医療看護を取り巻く社会構造の変化や経済的環境の変化、さらに世界の動きにも注目してください。文献や参考資料だけでなく、新聞・テレビ・雑誌等からも、精神障がい者とその家族の話題、地域での生活にも関心を持ちましょう。		

授 業 科 目 名	精神看護学援助論Ⅱ		科目の位置付け	Ⅲ－７－２－１,2,3,4,5
単 位 数	1 単位		時 間 数	30時間
履 修 年 次	2 年次 後期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	佐藤 浩一郎、金野 明子（全員実務経験あり）		講 義 形 式	講義
授業の概要・目的	精神看護の対象であるその人と、こころの健康・発達の理解に基づいた、精神現象と精神症状の特徴を理解する。すでに習得済みである主な精神疾患に関する病態、治療、精神看護の理念や概念、基盤の理論を身につける。 その人に必要な精神看護技術について理解する。事例を通して看護過程の方法と展開する能力を身につける。 精神医療における東洋医学の役割を理解し、精神看護に活かすことができる。			
授業のキーワード	セルフマネジメント、スティグマ、精神科リハビリテーション、東洋医学、患者－看護者関係、コミュニケーション技法、司法精神看護、主な精神疾患			
授業の到達目標	I 精神科看護、精神看護における看護技術について理解することができる II プロセスレコードを基盤とした展開を通して、患者－看護者関係を振り返り再構成することができる III 多様で複合的な精神看護の役割を一つひとつ説明することができる IV その人の健康状態をアセスメントできる V その人の強みに着目した看護について説明できる VI 地域精神保健活動における資源の活用等を含めた精神看護における看護の実際を事例を通して、精神障がい者の地域生活における自立と自律への支援を理解することができる			
授 業 計 画	回	内 容		担当教員
	1	ガイダンス、精神障害をもつ人と患者－看護者関係の構築、ペプロウ理論、精神障害をもつ人のセルフマネジメント支援、他		佐藤
	2	精神科リハビリテーション（作業療法、SST、精神科デイケア）、精神療法①（広義の精神療法、狭義の精神療法、支持的精神療法、認知行動療法、森田療法、他）		佐藤
	3	精神療法②（①補足、心理学的アプローチ、心理教育、他） 司法精神医療と司法精神看護		佐藤
	4	精神看護におけるさまざまな技法（１） プロセスレコード		金野
	5	精神医療における東洋医学の役割と実際		外部講師
	6	精神看護におけるさまざまな技法（２）		金野
	7	精神疾患の基礎知識（精神科で出会う人々） 精神状態・身体状態の観察とアセスメント・看護計画立案		金野
	8	事例で学ぶ：精神疾患／障害をもつ人への看護 統合失調症①		金野
	9	事例で学ぶ：精神疾患／障害をもつ人への看護 統合失調症②		金野
	10	事例で学ぶ：精神疾患／障害をもつ人への看護 統合失調症③		金野
	11	事例で学ぶ：精神疾患／障害をもつ人への看護 うつ病①		佐藤
	12	事例で学ぶ：精神疾患／障害をもつ人への看護 うつ病②		佐藤
	13	事例で学ぶ：精神疾患／障害をもつ人への看護 うつ病③		佐藤

授 業 計 画	14	精神領域における治療の理解と看護：身体合併症とそのケア／他	佐藤
	15	精神科看護 精神看護 まとめ	金野
教 科 書	看護学テキストNiCE 精神看護学Ⅰ こころの健康と地域包括ケア 改訂第3版 南江堂 看護学テキストNiCE 精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版 南江堂		
参考文献 その他資料	新体系看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 メジカルフレンド社 新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社 その他 授業の展開に合わせて適宜紹介する		
成績評価方法	定期試験80%、課題レポート20%		
履 修 条 件	精神看護学概論を履修・単位取得済みであること		
備 考	授業単元の内容部分については事前によく読んでおくこと。 課題レポートについては、内容を評価の対象とするので、参考書のコピーではなく、自らの考えをきちんと記述すること。1回の授業につき、毎回1時間以上の予習・復習をすること。 レポート課題や試験での誤解の多い問題等には全体に向けて解説します。各授業終了後の質問や感想等には、個別及び全体に向けて回答しながらフィードバックをします。 現在の姿である精神保健医療看護を取り巻く社会構造の変化や経済的環境の変化、さらに世界の動きにも注目してください。文献や参考資料だけでなく、新聞・テレビ・雑誌等からも、精神障がい者とその家族の話題、地域での生活にも関心を持ちましょう。		

授 業 科 目 名	看護研究	科目の位置付け	Ⅲ－8－2・3－4,5
単 位 数	2単位	時 間 数	30時間
履 修 年 次	2年～3年次 通年	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	講義		
担 当 教 員	熊田 真紀子、小野 八千代、佐藤 喜根子、平尾 由美子、井上 由紀子、森岡 薫、佐藤 浩一郎、菊地 真、岩渕 起江、金野 明子、安倍 藤子、佐藤 文枝、青野 都、坂本 智恵子、鈴木 博美、木島 祐子、佐藤 大介、島倉 蓉子（全員実務経験あり）		
授業の概要・目的	研究をすることの重要性や、分類、進め方、クリティーク、倫理について理解するとともに看護について考察できる姿勢を養うことを目的とする。具体的には、事例研究に関する一般的な知識を中心に学習を進め、事例研究の意義について理解し、文献の活用を行いながら、自らが実習で関わった事例をもとに各自が事例研究を行う。これにより、自分の行った看護について意味づけをし、看護観の育成を図ると共に、今後の看護実践を研究的な態度で実践する能力を養う。また、研究成果の発表と評価を行い、研究論文としてまとめる能力を養う。		
授業のキーワード	事例研究、研究倫理、論理的思考、クリティカルシンキング、クリティーク		
授業の到達目標	Ⅰ 看護研究の意義と役割を理解できる。 Ⅱ 看護研究の過程（プロセス）を理解できる。 Ⅲ 看護の視点から、課題を明確にするための文献を検索し精読できる。 Ⅳ 論理的に思考し、表現する力を身につけることができる。 Ⅴ 研究的態度を身につけることができる。 Ⅵ 研究計画が立案できる。 Ⅶ 研究計画に基づいてデータを収集できる。 Ⅷ 収集したデータを分析し考察できる。 Ⅸ 看護研究のプロセスを通して、研究者として必要な基本的態度を学ぶことができる。 1）倫理的配慮（研究倫理、研究者倫理）ができる。 2）研究の限界を客観的にとらえ、今後の課題を検討できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	研究とは	
	2	量的研究とは・質的研究とは	
	3	文献検索の方法	
	4	事例研究・研究計画書の書き方	
	5	クリティークとは何か。論文のクリティークをやってみよう	
	6～15	各担当教員で実施	
教 科 書	適宜提示する		
参考文献 その他資料	適宜提示する		
成績評価方法	成績評価方法：1.提出物（60％）2.学習態度（40％） 成績評価基準：評価の基準は、提出された論文の内容と目標Ⅰ～Ⅸまで学習していく過程の態度を総合して、C以上を合格の基準とする。		
履 修 条 件	特になし		
備 考	<3年次> 2026年4月～領域を決定しゼミ方式で開始 2026年11月28日 論文提出 締切		

授 業 科 目 名	地域・在宅看護実習Ⅰ	科目の位置付け	Ⅲ－9－2－1,2,3,4,5
単 位 数	1単位	時 間 数	40時間
履 修 年 次	2年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	平尾 由美子、鈴木 博美、 木島 祐子（全員実務経験あり）	講 義 形 式	実習
臨 地 実 習 要 概	看護小規模多機能型居宅介護（看多機）における看護の実際を体験し、疾病や障害を持ちながら在宅で生活、療養する人とその家族に対しての看護の実際について理解する。在宅における看護過程の展開方法と、地域での暮らしを支援するための多職種の連携方法を学ぶ。		
臨 地 実 習 的 目 的	看護小規模多機能型居宅介護サービスの実際から、地域・在宅で暮らす人々のニーズと支援のあり方を学ぶ。療養者とその家族が望むその人らしい生活を送るための多職種による支援・連携方法と看護職者の役割を理解する。また、地域包括ケアシステムの中での看多機の利点と役割について理解する。		
臨 地 実 習 の キ ー ワ ー ド	在宅看護過程、看護小規模多機能型居宅介護、地域包括ケアシステム、多職種連携		
臨 地 実 習 の 到 達 目 標	Ⅰ．療養者の健康課題・生活上のニーズおよび家族のニーズを理解し、援助の方法とプロセスを説明し一部実践することができる。 Ⅱ．地域・在宅での暮らしを支援するための制度について理解する。 Ⅲ．在宅ケアにかかわる保健医療福祉職チームの連携方法、および看護職の役割を理解し考えを述べることができる。 Ⅳ．在宅ケアにかかわる看護職者に要求される姿勢や態度を身につけることができる。		
実 習 期 間	2026年1月～ 2026年3月の領域別実習期間のうちの1週間		
実 習 施 設	看護小規模多機能型居宅介護（あおい、ノテ富沢、セントケア仙台中野、セントケア仙台北白、セントケア荒井、はなもも、ハートケア鶴ヶ谷、松田病院、寺岡クリニック）		
臨 地 実 習 方 法	1．授業の復習に加え、事前学習課題を実施し実習に臨む。 2．看護小規模多機能型居宅介護サービス施設での実習を行う。 3．学生1～3名を1グループとし、各施設での実習を行いカンファレンスで学びを共有する。		
臨 地 実 習 計 画	回	内 容	
	1	学内実習 オリエンテーション、事前課題グループワークおよび追加学習	
	2	看護小規模多機能型居宅介護実習	
	3	看護小規模多機能型居宅介護実習	
	4	看護小規模多機能型居宅介護実習	
	5	学内実習 実習のまとめカンファレンス、発表	
教 科 書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術 メディカ出版		
参考文献 その他資料	授業での配布資料、その他適宜紹介する。		
成 績 評 価 方 法	成績評価を受けるには5分の4の出席が必要であり、全日程の出席を原則とする。 1 評価の対象 ①事前学習 ②看護実践の内容 ③実習記録 ④まとめレポート ⑤態度、マナー 2 評価の方法 事前学習、実習における看護実践（態度とマナー、意欲を含む）、実習記録、実習まとめの参加態度について、実習目的と目標の到達度を総合的に評価する。		
履 修 条 件	「地域・在宅看護概論」「地域・在宅看護援助論Ⅰ」「地域・在宅看護援助論Ⅱ」を履修し、所定の単位を取得していること。		
備 考	・在宅療養に関わる制度についての基礎知識が不十分な場合は、必要な学びが得られない。必ず事前学習を実施した上で実習に臨むこと。 ・生活の場に入る実習であることから、態度・マナーには特に留意すること。		

授 業 科 目 名	成人・高齢者看護学実習Ⅰ	科目の位置付け	Ⅲ－9－2－1,2,3,4,5
単 位 数	2単位	時 間 数	80時間
履 修 年 次	2年次 後期	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	実習		
担 当 教 員	安倍 藤子、森岡 薫、岩渕 起江、佐藤 文枝、島倉 蓉子、越川 暢恵 (全員実務経験あり)		
臨 地 実 習 概	疾病の急性期・回復期にある人の心身の特徴を理解し看護展開を行う。急性に転帰する人（たとえば術前・術中・術後、慢性疾患の急性転帰）の看護について事前学習し、その人の経過について学ぶ。また、看護の継続性を理解するために、看護師および多職種の連携システム（経過管理、退院支援）を学び、退院後の生活指導を教員あるいは実習指導者の指導を受け実施する。		
臨 地 実 習 目 的	成人期あるいは高齢期にある急性の健康障害を生じた対象が、侵襲による健康危機状況から回復し、健康を維持・増進できるようにセルフマネジメントに向けた援助を学ぶ		
臨 地 実 習 の キ ー ワ ー ド	術前・術中・術後看護、麻酔後の看護、クリティカルケア、フィジカルアセスメント、回復過程、退院支援、加齢による生理学的変化		
臨 地 実 習 の 到 達 目 標	Ⅰ 急性期・回復期にある患者・家族の身体的・心理的・社会的な変化について、アセスメントできる。 Ⅱ 生命を脅かす問題、予測される危機的問題について、観察および実施可能なケアを実施することができる。 Ⅲ 実施した看護援助を評価できる。 Ⅳ 急性期・回復期のケアに関わる看護者の役割を説明できる。 Ⅴ 学生としての役割・責務を果たすことができる。		
実 習 期 間	2年次1月～3月のうちの2週間		
実 習 施 設	大崎市民病院、仙台市立病院、総合南東北病院、みやぎ県南中核病院、宮城県立がんセンターのうちの指定された病院		
臨 地 実 習 方 法	急性期・回復期にある患者を受け持ち、実習病棟のほか、手術室等の見学実習を行う。 成人・高齢者看護学実習Ⅰでは、担当する患者に対して、急性期・回復期に必要な治療に応じた看護ケアを学習し、看護過程を展開する。さらに学生カンファレンスを行い、看護上の問題、看護計画、看護援助について検討していく。最終的には学内の事例発表会を通して、自己の看護観を深める。受け持ち患者については、以下のとおりとする。 ・急性期・回復期にある成人期～高齢期の対象。原則として患者1名に対し看護を展開する。 ・原則として学生2名で患者1～2名を担当する（同時に複数の患者を受け持たない）が、実習記録は学生各自で行う。 ・実習施設および病棟はオリエンテーション時に説明する。		
臨 地 実 習 計 画	回	内 容	
	1	学内実習：実習オリエンテーション ＜実習事前学習の確認・自己の課題に基づいた学習＞	
	2	臨地実習	
	3	臨地実習	
	4	臨地実習	
	5	臨地実習 中間カンファレンス	

臨 地 実 習 計 画	6	学内実習：必要な看護技術の確認
	7	臨地実習
	8	臨地実習
	9	臨地実習 最終カンファレンス
	10	学内実習：＜成人・高齢者看護学実習Ⅰの統合＞まとめ、ケース発表会
教 科 書	既習の教科書やテキストおよび授業（「成人看護学概論」および「成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」「高齢者看護学概論」「高齢者看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」）で配布した資料。 その他、オリエンテーション等で紹介する。	
参考文献 その他資料	参考書は、授業の内容及び学生の要望に応じて、適宜紹介する。	
成績評価方法	成績評価を受ける資格は原則として全日程の出席である。 やむを得ず欠席した場合は、担当教員および科目責任教員の指示を受ける。 1. 評価の対象：①事前学習 ②看護実践の内容 ③実習記録 ④ケースレポート 2. 評価の方法：事前学習、実習における看護実践（態度・意欲を含む）、実習記録、カンファレンスやケース発表会への参加、ケースレポート、実習目的・目標の到達度を、ループリックにより評価し（100%）、60% 以上を合格とする。 3. 成績判定は、学生便覧「12. 臨地実習の評価」に準ずる。	
履 修 条 件	本実習に臨むためには、「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「成人看護学概論」および「成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」「高齢者看護学概論」「高齢者看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」を履修し、所定の単位を修得していること。	
備 考	実習オリエンテーションで、本実習の目的・方法・成績評価法、実習施設、シラバスの変更点など重要事項を説明する。実習オリエンテーションおよび実習前演習は、臨地実習の一環と位置付けられており、出席を前提とする。欠席した場合は、実習に出ることができない場合がある。 準備学習として、「成人看護学概論」および「成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」「高齢者看護学概論」「高齢者看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」で学習した知識を活用し、実習病棟で経験する主な疾患と病態生理、受け持ち患者情報の理解に努める（事前学習120分程度）。日々の実習終了後には実習記録を整理する。その上で疑問点を明確にし、翌日の実習で疑問を解消する姿勢で臨むこと（復習60分程度）。	

授 業 科 目 名	療養支援施設実習	科目の位置付け	Ⅲ－9－2・3－1,2,3,4,5
単 位 数	2単位	時 間 数	80時間
履 修 年 次	2年次 後期 3年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
講 義 形 式	実習		
担 当 教 員	森岡 薫、佐藤 文枝、島倉 蓉子（全員実務経験あり）		
臨 地 実 習 概 要	高齢期にある人の特徴を身体的・社会的・精神的な側面から理解する。また高齢期にある人の多様性や加齢による生活の変化、健康問題を理解し、高齢期にある人およびその家族への看護援助を学ぶ。介護老人保健施設や通所施設での実習を行うものであり、介護保険に基づき施設を利用する高齢期にある人を対象として実習を行う。		
臨 地 実 習 的 目 的	加齢性変化や健康障害に伴う様々な健康課題を持ちながら療養生活している高齢者に対し、その人にとっての自立、QOLの向上を目指した看護援助に必要な基礎的能力を習得する。また実習を通じて、高齢者看護の特徴や課題を理解する。		
臨 地 実 習 の キ ー ワ ー ド	介護保険、施設サービス、介護老人保健施設、生活機能、目標志向型思考		
臨 地 実 習 の 到 達 目 標	Ⅰ 加齢性変化や健康障害に伴う健康課題を持ち、施設で療養している高齢者とその家族を対象に、看護過程を活用し適切な援助を実践できる。 Ⅱ 高齢者が療養生活している場（介護老人保健施設等）について説明できる。 Ⅲ 施設で療養生活をしている高齢者とその家族を支援する保健医療福祉体制と、その中での看護職者の役割について理解を深めることができる。 Ⅳ 実習を通して高齢者看護の特徴と課題について考察できる。		
実 習 期 間	2026年1月～ 2026年6月のうち2週間		
実 習 施 設	（介護老人保健施設）エバーグリーン・ヤギヤマ、エバグリーン・ツルガヤ、エバーグリーン・イズミ、仙台ロイヤルケアセンター、仙台青葉ロイヤルケアセンター以上のうち指定された施設		
臨 地 実 習 方 法	介護老人保健施設で生活する高齢期にある人を受け持ち、日常生活の中での健康管理、慢性疾患管理を支援する看護を考え実践する。 ・入所者1名受け持ち、看護過程に基づいて看護を実践する。 ・入所者に関わるカンファレンス、多職種との連携の場にはできる範囲で参加し、介護保険サービスの仕組みとその中での支援方法について学ぶ。		
臨 地 実 習 画 計	回	内 容	
	1	学内実習：実習オリエンテーション	
	2	臨地実習：受け持ち入所者の決定、情報収集	
	3	臨地実習	
	4	臨地実習	
	5	臨地実習：中間カンファレンス 看護上の課題の明確化	
	6	学内実習：中間まとめ 看護上の課題の明確化 看護計画立案 看護ケア実施準備	
	7	臨地実習	
	8	臨地実習	
	9	臨地実習	
	10	学内実習：実習のまとめ	
教 科 書	老年看護の教科書、授業での配布資料。		
参考文献 その他資料	オリエンテーションで紹介する		

成績評価方法	以下を総合的に評価し、到達度60%以上を合格とする。 ①事前課題 ②実習記録 ③事後レポート ④実習態度
履修条件	高齢者看護学概論、高齢者看護学援助論Ⅰ、高齢者看護学援助論Ⅱの単位を取得していること。
備考	実習オリエンテーションで、本実習の目的・方法・成績評価法、実習施設、シラバスの変更点など重要事項を説明する。実習オリエンテーションおよび実習前演習は、臨地実習の一環と位置付けられており、出席を前提とする。欠席した場合は、実習に出ることができないことがある。

授 業 科 目 名	小児看護学実習	科目の位置付け	Ⅲ-9-2・3-1,2,3,4,5
単 位 数	2単位	時 間 数	80時間
履 修 年 次	2年次 後期～3年次 前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	井上 由紀子、高橋 育子（全員実務経験あり）	講 義 形 式	実習
臨 地 実 習 概	健康障害をもつ子供とその家族を理解し、健康上および成長発達上の問題解決に向けた援助を通して、小児の成長発達を促進し健康レベルに適した援助方法について具体的に学ぶ。 地域社会における子供と家族の生活から、発達段階各期の特性および個別性を理解し、子供や家族を総合的に理解し必要な支援や役割について学習する。		
臨 地 実 習 的 目	I 子供の成長発達段階各期の理解を深め、一人一人の成長発達段階に応じた看護援助に必要な知識、技術、態度を学ぶことができる。 II 病気や障害を理解し、それが子供に及ぼす影響や正しい知識と技術を学び、個別性のある看護を実践できる。 III 子供の療育環境、地域や他職種との連携について知見を深める。		
臨 地 実 習 の キーワード	健康障害、入院、セルフケア、成長発達、家族、職種間連携、看護支援		
臨 地 実 習 の 到達目標	I 健康障害を持つ子供の特性とその家族を理解するとともに、子供と家族を取り巻く環境とその影響を考察することができる。 II 子供の発達段階および健康障害に応じた援助ができる。 III 子供とその家族の健康の保持、増進、回復のために、適切な情報を収集、分析し、看護を実践できる。 IV 子供の安全対策を理解した上で、起こりやすい事故の防止と感染予防を実践できる。 V 小児医療を支える他部門、多職種との連携を学び、保健医療チームの一員としての看護師の役割を理解することができる。 VI 健康障害をもつ子供や家族の生活が地域社会でどのように保障されているのか、また地域で生活するうえでのニーズをとらえることができる。 VII 子供や家族の発達段階や特性に応じたコミュニケーションについて理解を深めることができる。		
実 習 期 間	2026年1月から2026年7月のうち2週間		
実 習 施 設	仙台市立病院、宮城県立こども病院、大崎市民病院のうち指定された病院。 仙台市内の保育所、こども園のうち指定された保育施設。		
臨 地 実 習 方 法	1. 病院実習 1) 入院中の患児を受け持ち小児期の看護を実践する。健康障害をもつ子供が地域社会で療養生活を送る上で必要となる福祉制度やサービス、退院後の支援、職種間連携について学ぶ。 2) 実習施設の師長、指導者、教員が指導を行う。実習施設および実習病棟についてはオリエンテーション時に説明する。 2. 保育施設実習 1) 乳幼児の反応や保育士等のかかわりを観察し、健康障害の有無によらず、子供と家族が地域社会で生活していくための支援を学ぶ。また地域における施設の機能や役割および看護師に求められる役割を理解する。 2) 実習施設の保育士、看護師等が指導を行う。実習施設についてはオリエンテーション時に説明する。		

臨 地 実 習 計 画	回	内 容
	1	学内実習 病院実習オリエンテーション
	2	病院実習
	3	病院実習
	4	病院実習
	5	病院実習
	6	学内実習 保育施設実習オリエンテーション
	7	保育施設実習
	8	保育施設実習
	9	保育施設実習
	10	学内実習 実習のまとめ
教 科 書	系統看護学講座 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院	
参考文献 その他資料	ナーシング・グラフィカ 小児看護学〔1〕 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学〔2〕 小児看護技術 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学〔3〕 小児の疾患と看護 メディカ出版 リンダJ. カルペニート 看護診断ハンドブック 第11版 医学書院	
成績評価方法	1. 病院実習、保育施設実習それぞれの評価項目に沿って実習内容、課題等により総合的に評価する。 （1）病院実習 実習内容（態度、記録、意欲を含む）85%、課題（事前学習含む）等15%をもとに総合的にを行い、目標の到達が60%以上で合格とする。 （2）保育施設実習 実習内容（態度、記録、意欲を含む）85%、課題（事前学習含む）等15%をもとに総合的にを行い、目標の到達が60%以上で合格とする。 最終評価は、病院実習60%、保育施設実習40%として評価する。 2. 原則として全て出席している者が評価対象となる。病院実習と保育施設実習それぞれの出席が4/5以上で評価対象となる。やむを得ず欠席となる場合は事前に教員の指示を受ける 3. 実習記録や課題（事前学習含む）は指定通りに作成、提出できない場合は減点の対象とする。また、事前連絡なしでの提出物の遅延・未提出については原則、評価対象外とする。 4. 事前の学内オリエンテーション、演習も実習の一部となっているため参加を原則とする。	
履 修 条 件	「小児看護学概論」、「小児看護学援助論Ⅰ」、「小児看護学援助論Ⅱ」を履修し、所定の単位を取得していること。	
備 考	・教員や指導者からの助言を待っているのではなく自ら学ぼうとする姿勢で臨むこと。 ・実習共通要項、小児看護学実習の要項を熟読し実習に備えること。 ・実習中の言葉遣い、態度、身だしなみは子供の見本となるよう留意すること。不適切な場合は実習中止とする。	

授 業 科 目 名	母性看護学実習		科目の位置付け	Ⅲ－９－２・３－１,2,3,4,5
単 位 数	2単位		時 間 数	80時間
履 修 年 次	2年次 後期 3年次 前期		必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員	青野 都、佐藤 喜根子（全員実務経験あり）		講 義 形 式	実習
臨 地 実 習 要 概	周産期の女性及び新生児の身体的・心理・社会的特徴を総合的に理解し、対象者の健康保持増進、異常の予防、家族の新たな関係形成等看護の実際を学ぶ。褥婦を受け持ち、母子の看護過程を展開し、周産期看護技術と家族支援の実践を学ぶと共に生命の尊厳について考える。また女性のセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツを考える機会とする。			
臨 地 実 習 的 目 的	女性のライフステージとその家族の健康についての課題とその機能を十分に発揮できるような生活支援等多様な対処法について学ぶ。 また青年期を対象とした健康教育を実施する。			
臨 地 実 習 の キ ー ワ ー ド	周産期にある女性・新生児・家族の形成・セクシュアリティリプロダクティブヘルス/ライツ			
臨 地 実 習 の 到 達 目 標	I 周産期にある母子および家族の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 II 周産期にある母子および家族の看護過程を展開し、看護計画を立案し実践ができる。 III 周産期にある母子への基本的な看護技術を習得する。 IV 新たな家族関係が確立するために必要な看護や支援が理解できる。 V 女性のライフステージにおける課題と支援方法を学ぶ。 VI 女性のセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ ライツの重要性が理解できる。			
実 習 期 間	2年次後期（1～3月）・3年次前期（5～9月）			
実 習 施 設	仙台市立病院・大崎市民病院・宮城県立こども病院・スズキ記念病院・とも子助産院・ははこっこ助産院・森のおひさま助産院、仙台赤門医療専門学校			
臨 地 実 習 方 法	・病院実習 妊産褥婦・新生児を受け持ち、母子の看護過程を展開し、周産期看護技術と看護支援の実践を学ぶと共に生命の尊厳について考える。 ・助産院実習 病院以外の出産施設である助産院での妊産褥婦・新生児の周産期看護技術と看護支援の実際を学ぶ。宮城県内の母子保健にまつわる環境の実態を学び、マタニティサイクルにある人の生活について考える。 ・健康教育実習 病院実習や地域実習で見てきた健康に対応する課題解消・健康促進のテーマをグループで決め、テーマに合った内容・規模・媒体を使用し指導案をつくり発表する。 ※実習施設についてはオリエンテーションで説明する。			
臨 地 実 習 画 計	内 容			
	第 1 週 目	(月)学内技術演習：看護技術の確認、実習施設オリエンテーション		
		(火) 病院実習：(母子を受け持つ) 情報収集・アセスメント・実践		
		(水) 病院実習：(受け持ち継続) 情報収集・アセスメント・実践・カンファレンス		
		(木) 病院実習：(受け持ち継続) 情報収集・アセスメント・実践・カンファレンス		
		(金) 病院実習：看護過程のまとめ・最終カンファレンス		

	第	(月) 助産院実習
	2	(火) 助産院実習
	週	(水) 学内：健康教育指導案作成
	目	(木) 臨地：健康教育指導
		(金) 臨地：健康教育指導実施・実習まとめ
教科書	系統看護学講座 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 医学書院	
参考文献 その他資料	参考書は、授業の内容及び学生の要望に応じて、適宜紹介する。 「母性看護学援助論Ⅰ」「母性看護学援助論Ⅱ」で使用したテキスト、また講義中に使用した資料等を参考にすること。	
成績評価方法	母性看護学実習評価票（病院実習と地域実習）をもとに、総合的に判断する。	
履修条件	「母性看護学概論」「母性看護学援助論Ⅰ」「母性看護学援助論Ⅱ」を履修し、所定の単位を取得していること。	
備考	実習は病院と地域で行い、女性のライフステージと健康についての課題と多様な対処法について学ぶ。 実習開始にあたり、履修した科目を復習し、基礎知識を習得しておくこと。	

専任教員・オフィスアワー

専門領域	教員氏名	研究室	連絡先	前 期	後 期
学長 医学一般	笹 野 公 伸	学長室	hironobu-sasano	事務部窓口まで	
学科長 母性看護学	佐藤 喜根子	500	kineko-sato	在室時はいつでも対応	
基礎看護学	菊 地 真	514	makoto-kikuchi		
	小野 八千代	503	yachiyo-ono		
	熊田 真紀子	504	makiko-kumata		
	坂本 智恵子	541	chieko-sakamoto		
	佐藤 大介	531	daisuke-sato		
地域・在宅看護論	平尾 由美子	501	yumiko-hirao	金 5 限目	
	鈴 木 博 美	541	hiromi-suzuki	在室時はいつでも対応	
	木 島 祐 子	531	yuko-kishima		
成人看護学	安 倍 藤 子	507	fujiko-abe		
	岩 渕 起 江	508	yukie-iwabuchi		
	越 川 暢 恵	523	nobue-koshikawa	在室時はいつでも対応	
高齢者看護学	森 岡 薫	505	kaoru-morioka		
	佐 藤 文 枝	531	fumie-sato		
	島 倉 蓉 子	531	yoko-shimakura		
小児看護学	井上 由紀子	502	yukiko-inoue	木 5 限目	
母性看護学	青 野 都	541	miyako-aono	在室時はいつでも対応	
精神看護学	佐藤 浩一郎	506	koichiro-sato		
	金 野 明 子	510	akiko-konno		
	寺田 みゆり	523	miyuri-terada		

* 急な業務・学科等で不在のこともありますので、事前にメール等にて連絡してください。

* メール送信の場合、連絡先の後に、@sendai-akamon.ac.jp をつけてください。

* オフィスアワーの活用方法に関しては、学生便覧 P.34 を確認してください。

非常勤講師一覧（2 年次担当）

	科 目 名	講 師 名	所 属 先・役 職
基礎分野	芸術論(選択)	尾崎 彰宏	東北大学教養教育院 総長特命教授
	法律学(選択)	陶久 利彦	東北学院大学法学部 教授
	教育学	佐久間 啓彰	東北大学大学院 教育学研究科 博士課程後期
専門基礎分野	疾病治療論Ⅰ（外科総論）	佐藤 千晃	東北大学病院 講師
	（外科総論）	岡本 宏史	東北大学病院 講師
	（麻酔）	水田健太郎	東北大学大学院歯学研究科 教授
	（呼吸器）	千葉 茂樹	仙台赤十字病院 呼吸器内科 副部長
	（呼吸器）	大河内眞也	東北大学医学系研究科 産業医学分野 准教授
	（呼吸器）	井上 彰	東北大学大学院医学系研究科 教授
	（呼吸器感染症）	渡辺 彰	東北文化学園大学医療福祉学部 特任教授
	（眼科）	國方 彦志	東北大学眼科 特命教授
	疾病治療論Ⅱ（循環器）	西條 芳文	東北大学医工学研究科 教授
	（腎疾患）	芳賀 博	西陵内科 院長
	（泌尿器）	梶井 成彦	仙台赤十字病院 泌尿器科 副部長
	（乳腺）	江幡 明子	東北大学病院 総合外科 助教
	疾病治療論Ⅲ（消化器）	阿南 陽二	医療法人勝久会 介護老人保健施設 気仙苑 施設長、理事長
	（内分泌）	柴原 茂樹	（前） 東北大学大学院医学系研究科 教授
	（代謝）	小野 美澄	東北大学病院糖尿病代謝・内分泌内科 助教
	（代謝）	手塚 雄太	東北大学病院糖尿病代謝・内分泌内科 助教
	（婦人科）	淵之上康平	仙台ART クリニック 医師
	疾病治療論Ⅳ（脳・神経）	志賀 裕正	
	（免疫）	齋木由利子	東北大学 医学教育推進センター 准教授
	（運動器）	橋本 功	東北大学整形外科 講師
	（耳鼻咽喉）	香取 幸夫	東北大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科 教授
	（口腔）	飯久保正弘	東北大学大学院歯学研究科 歯科医用情報学分野 教授
	疾病治療論Ⅴ（血液）	齋木由利子	東北大学 医学教育推進センター 准教授
	（皮膚疾患）		
	（放射線）	稲葉 洋平	東北大学大学院医学系研究科 講師
	リハビリテーション論	笠原 岳人	仙台大学 教授
	東洋医学概論	平栗 辰也	株式会社 源気堂 代表取締役
	東洋医学方法論		

専門基礎分野	公衆衛生学	石黒 真美	東北大学東北メディカル・メガバンク機構 講師
	医療と倫理	直江 清隆	東北大学大学院文学研究科 教授
	医療・福祉関係法規	陶久 利彦	東北学院大学法学部 教授
専門分野	小児看護学援助論Ⅱ	高橋 育子	尚綱学院大学 総合人間科学系 教育部門 心理・教育学群 子ども学類 准教授
		森本 哲司	東北医科薬科大学医学部 小児科学教室 教授
		虻川 大樹	宮城県立こども病院 副院長、総合診療科・消化器科科長
		木村 正人	国立病院機構 仙台医療センター 小児科 医長
		桜井 博毅	宮城県立こども病院 部長
		福與なおみ	東北医科薬科大学 准教授
		佐藤 篤	宮城県立こども病院 血液腫瘍科 科長
		北沢 博	東北医科薬科大学医学部 小児科 講師
	精神看護学援助論Ⅰ	上野 草太	医療法人有恒会 こだまホスピタル 副院長

学籍番号

氏 名

シラバス 2025 2 年生

2025年4月1日 発行

編集・発行 学校法人 赤門宏志学院
 仙台赤門短期大学 看護学科
所在地 〒980-0845
 仙台市青葉区荒巻字青葉6番 41
 TEL 022-395-7750(代表)



学校法人 赤門宏志学院
仙台赤門短期大学 看護学科